明治三十九年九月二十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百貳號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第貳百貳號目次

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改良普及并看病法の如きはいとも緊要の事にして皆我邦婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相携て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講説演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の姉妹に益すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ併て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續は條末に詳なり）入會後轉居等あるときは適宜に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に通知し死亡する時は其親族知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に名譽員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に所出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、常議若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の中より會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に限り[illegible]●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を[illegible]ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を[illegible]書記は[illegible]會長幹事評議員の任期は二ケ年とす[illegible]員生ずるときは[illegible]次點者を以て[illegible]す●第十五條　[illegible]は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　[illegible]議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會[illegible]く若し必要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし[illegible]員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　[illegible]ある人々に衛生上の講演説談話を聞若しくは會員をして衛[illegible]ものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは[illegible]●第十九條　評議會[illegible]他重要の件審定のこと●第廿一條　[illegible]本會の名義を以て三井銀行に預け置くべし[illegible]總て會計[illegible]檢印を要するものとす●[illegible]に決議し[illegible]年三月總會に報告すべし[illegible]女會●第廿五條　地方に於て本會々員廿名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとする[illegible]後員數增減あるときは其姓名を[illegible]員にして支會に加入したる者の會[illegible]規定に依るものとす●第廿七條　支[illegible]得●第廿八條　本會の雜誌は支會に[illegible]本會に送付すべし支會限りの會員に[illegible]同じ●第廿九條　支會は集會の都度[illegible]三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊[illegible]會員又は會員外の者にして金品若くは書籍物品等を本會に寄附する者あろ時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第廿二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送呈として別に返信料を添へらるべし（郵券送一切用）●第廿三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便局宛）振出しあるべし●第廿四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

総裁 東伏見宮依仁親王妃 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 濱尾作子

(いろは順)

幹事 鳩山春子
仝 羽田三緒子
仝 岡田德子
仝 高木かう子
仝 山本多穗子
仝 松平芳子
仝 三浦敎子
評議員 石川貞子
仝 岩下ゆか子
仝 濱田捨子
仝 長谷川仲子
仝 仁禮壽賀子
仝 西升子
仝 穗積歌子
仝 土肥多越子
仝 緒方悅子
仝 岡山とし子
仝 小川孝子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山龜子
仝 吉武輝枝子
仝 丹波貞子
仝 高橋孝子
仝 田村きよ子
仝 男爵夫人 南部限子
仝 中濱芳子
仝 子爵夫人 松井正子
仝 岸澄子
仝 三宅藤子
仝 宮本樂子
仝 宮下咲子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 理學博士 ドクトル 醫學博士 ドクトル 醫學博士 理學博士 [illegible] 醫學士 醫學士 醫學士 貴族院議員 醫學博士 法學博士 東京 醫學博士 新潟 小兒科 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 歩兵中佐 醫學博士 醫學博士

入澤達吉君 飯島魁君 伊澤信平君 色川圀士君 伊東祐彦君 飯盛挺造君 伊藤隼三君 石川千代松君 岩井禎造君 石原久君 野瀬雄一君 石原喜久太郎君 濱尾新君 濱田玄達君 鳩山和夫君 荻原樹四郎君 芳賀榮二郎君 長谷川泰君 長谷川一隆君 小原賴之君 岡田榮吉君 林春雄君 佐藤達次郎君 緒方正規君 堀内文次郎君 土肥慶藏君 岡田和一郎君

醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大西秀治君
醫學博士 大澤岳太郎君
一等藥劑官 恩田重信君
醫學士 若杉喜三郎君
男爵 加藤弘之君
ドクトル 加藤照麿君
醫學士 賀古鶴所君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 川上雅量君
醫學士 樫田[illegible]一郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學士 笠原光興君
醫學士 唐澤光德君
醫學博士 高橋順太郎君
ドクトル 高山紀齋君
醫學博士 高木兼寛君
法學博士 高木豐三君
醫學博士 田代義德君
新潟 田代亮助君
男爵 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
醫學士 高田耕安君
新潟醫[illegible]長 高橋辰五郎君
藥學博士 丹波敬三君
醫學士 高橋貞碩君
藥學博士 田原良純君
醫學士 田村光顯君
醫學士 久保猪之吉君
醫學士 米山彦郎君
二等軍醫正 星野葆光君
醫學士 宮本俶君
三等軍醫正 橫井忠國君
大日本敎育會長 辻新次君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 長與稱吉君
男爵 南部熈男君
[illegible] 長井長義君
醫學博士 中濱東一郎君

醫學士 原山玄通君
醫學士 栗本庸勝君
海軍中佐 小笠原長生君
醫學士 村松[illegible]三君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 栗本東明君
醫學士 山田鐵三君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
岡山 山川春二君
衛生試驗所技手 丸山長四郎君
ドクトル 松山陽太郎君
ドクトル 小此木信六郎君
盲啞學校長 小西信八君
鹿兒島 小泉貫君
醫學士 古川榮君
東京 布施正顯君
臺灣民政局長 後藤新平君
元帝國大學教授 エ、ベルツ君
醫學士 中野男梁君
文部書記官 寺田勇吉君
醫學士 寺田[illegible]作君
醫學士 寺田織尾君
子爵 秋元興朝君
前軍醫總監 足立寛君
ドクトル 新井古芳君
ドクトル 富士川游君
高崎醫會長 土谷全次君
產科婦人科 水原衛君
ドクトル 久保田[illegible]麿君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學士 淺田央君
醫學博士 朝倉文三君
ドクトル 朝山飛六君
高崎 秋田聰太郎君
醫學博士 佐藤三吉君
醫學士 櫻井郁二郎君
醫學士 佐藤恒久君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 榊順次郎君

醫學博士 榊保三郎君
醫學士 櫻井恒次郎君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學士 北村綺造君
醫學博士 北島多一君
ドクトル 北川乙二郎君
醫學博士 木下正中君
醫學士 北島小太郎君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學博士 三浦守治君
醫學博士 三浦謹之助君
小兒科專門 宮本仲君
理學博士 箕作佳吉君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三輪信太郎君
伯爵 土方久元君
醫學士 島村俊一君
醫學博士 弘田長君
ドクトル 川高昂君
ドクトル 須山卓爾君
醫學士 近川德君
醫學博士 木村德尚君
醫學博士 森林太郎君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 波多野博君
醫學博士 呉秀三君
ミス リッデル
ミス ヒユース
ミセス コーツ
ドクトル 菊池循一君
醫學士 橋本左武郎君
醫學士 鳥居春洋君
ドクトル 土田卯三郎君
ドクトル 佐藤迪雄君
ドクトル 西山信光君

大日本婦人衞生會

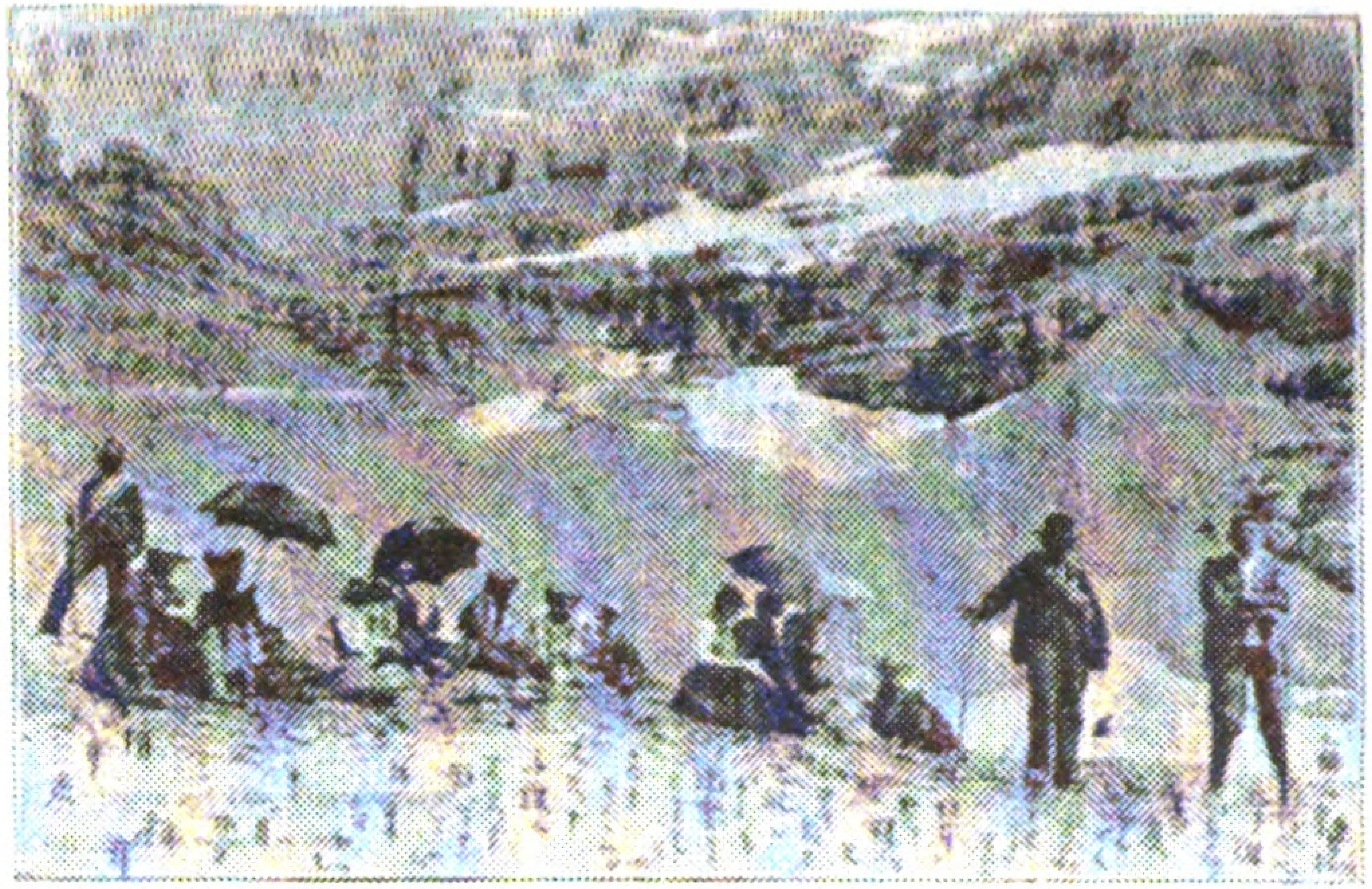
十月例會通知

炎暑中休會致し居候處追々秋氣相催し候に付來十月六日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通女子職業學校内に於て例會相催し左記の講話有之候富士川ドクトルには今回疾病の續稿を完了せられ引續き題目を改め世間未だ多ほく說き及ぼさゝる料理の衞生てふ演題にて不相變深遠の學理と研究に基き簡明精細に講話せらるべく候間御知友御同伴御來會有之度此段御通知申上候也

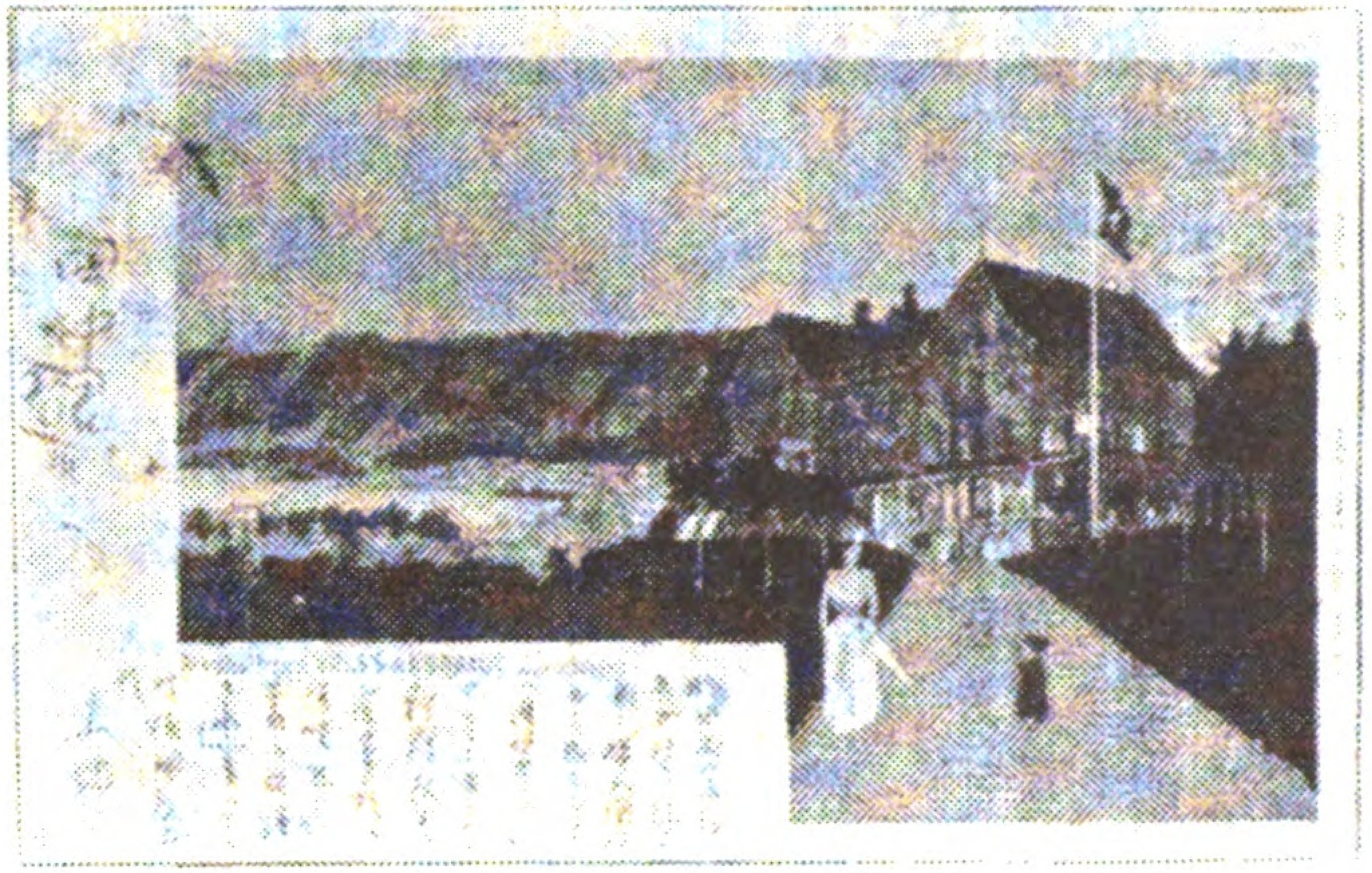
演題	講師
一誤解せられたる哺育法	警察醫長 醫學士 栗本庸勝君
一疾病の話(つゝき) 一料理の衞生	ドクトル 富士川游君

明治三十九年九月

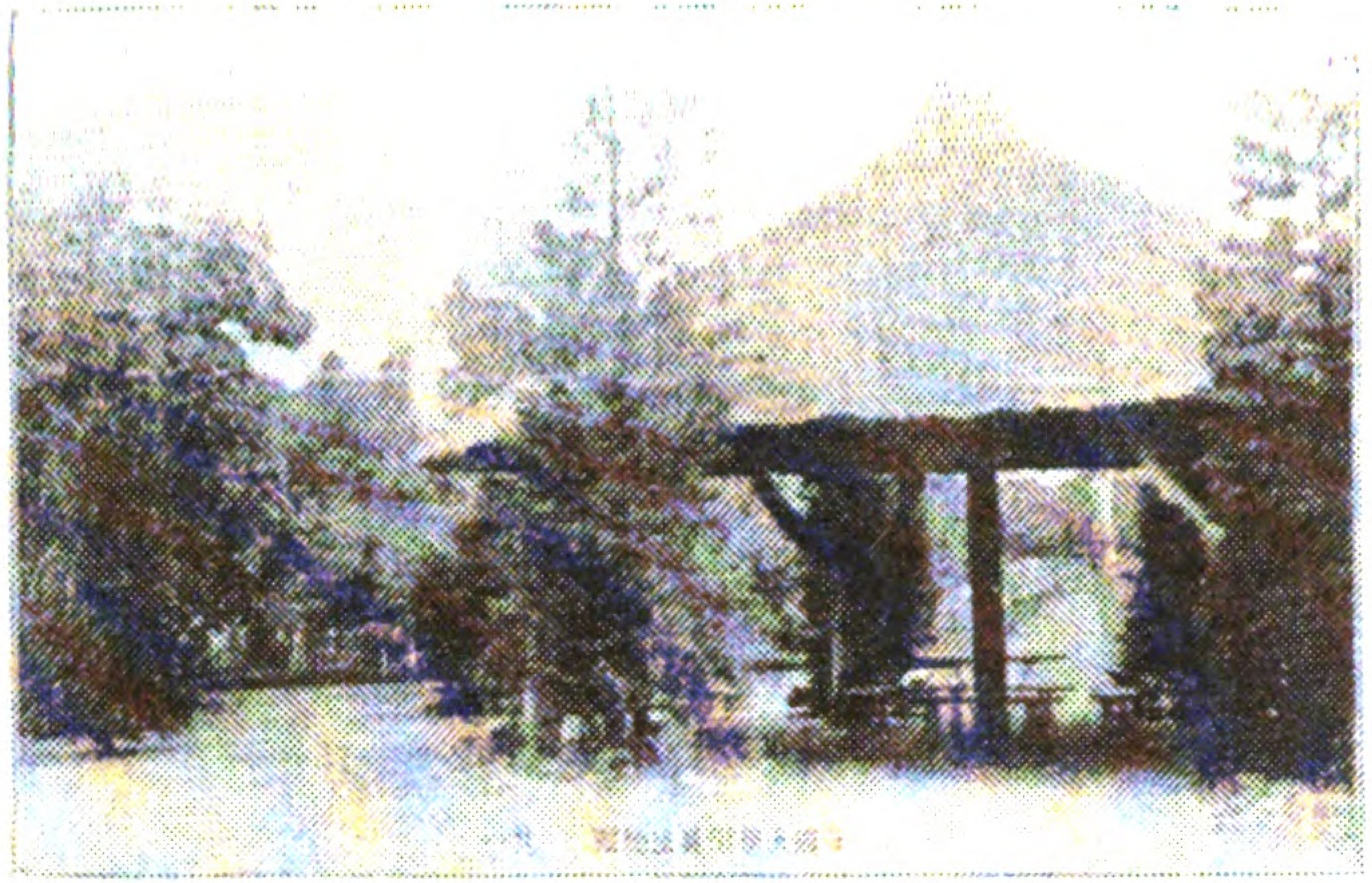
私立大日本婦人衞生會



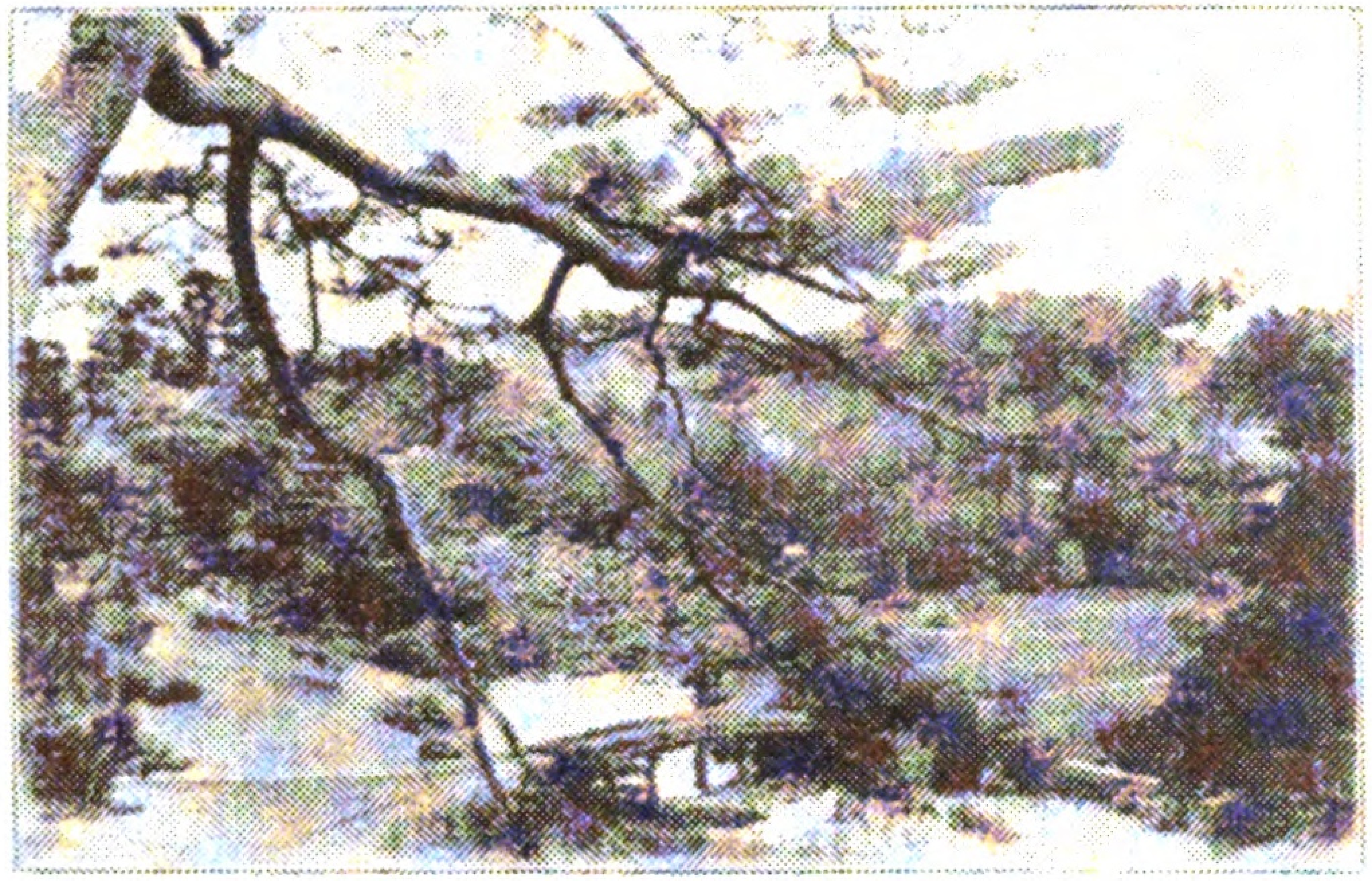
アルプス登山の紀念



瑞西國婦人團體より成れる療養所



秋季の遊覧所（其一）



仝上（其二）

名家演壇

疾病の話（前回の續）

ドクトル　富士川游君講述

疾病の豫防

これから、疾病の御話を致します。これまで數回引き續きて、御話致しました所て、病氣といふものも、生活せる身體の一とつの作用に外ならぬものであるといふことは御了解になりましたことゝ考へます、病氣といふものを、何か外から身體の中に這入る物のやうに考へるのは間違てありまして、平生の生活の作用が、何か刺戟のために、正規より變化するために、病氣といふものが出來るので、病氣も矢張、人類の生活機能の一個であります

それて、この病氣を豫防する、病氣に罹らないやうにするには、何うして宜しいか、斯う云ふ問題になるのでありますが、これは少しく委しく御話をしたいと考へます。これまて、病氣といふものは何ういふものであるかといふことを御話したのは極簡單て、病氣といふものは決して神佛や惡魔の所爲てなく、外より這入る物でなく、一定の刺戟のために、身體の基本たる細胞に變化が顯はれて、そのために其作用が常規より變ずるによりて、病氣といふものが出來るといふ次第を摘で御話したに過ぎませぬ、それならば、何うしたならば、此病氣を防ぐことが出來るか、又何うしたならば、此病氣を癒すことが出來るか、實は此問題の方が、皆樣に大切なのてあります。

それで病氣を防ぐのには、誰人の考でも、先づ病氣になるべき原因の身體の外から這入るのを除いて仕舞へば宜しいといふ考が浮ぶのである、この考はもとより至極よろしい、しかしそれを實行すること

は甚だ六ケ敷いのである、それは身體外から這入て來る疾病の原因を見付けることが六ケ敷いからである。

身體の外に何等の原因がなくとも、人間の身體の中に、何か申分があれば何時でも病氣は出來ます。外から蟲が這入るとか、或は黴菌が這入るとか、或は他の色々な物が這入るとか、或は色々の原因が、外より來て病氣が出來ることは無論のことでありますけれども、さうでなくとも人間の身體の中に、何か常より異なりたる點があれば、すぐに病氣といふものが顯はれます

人間は生きて居ります、生きて居るのには身體の臟器が、それぞれ一定の作用をするのでありますが、其作用が常より變るのが病氣で、これはすぐに分る。例之へば食物は口から這入り、胃と腸とで消化して身體を養なふのでありますが、胃の作用が少し常より變るか、腸の作用が常規でない時には、それが病氣となりて、すぐに知れるのであります。

それで病氣といふものは、何か一つの物で、外から身體の中に這入るもののやうに思ふのは間違でありまして、これも同じく身體の作用が一とつに相違ないのであります、ただその作用が尋常の通でないと言ふばかりであります。

で、病氣と申しますと、大分廣いやうでありますけれども、例へば怪我をする、或は何かの中に毒があつて、其毒を飲むで、さうして身體を傷つけるといふやうな風の事は、これは別に御話をする必要はない、此場合には原因も分つて居りますし、それがらそれが身體に入る具合も分つて居りまして、從てこれを防ぐ方法も分つて居ります、私が御話しやうといふのは、さういふ方の病氣でなしに、詰り身體の作用の具合の悪いことから起る分てありまして、約めて申しますると、人間の生活に要用なる條件、即ち人間が生きて居ります作用に狂ひを起させるために起る所の病氣であります。

生活の要件

人間が生活して行くのには、生活

して行くに必要なる條件がある、これを別けて、特別の條件、即ち年齡、男女、體質、及び人々によりて異なるものと、普通の條件、即ちすべての人間に通有なるものとの二つといたします。

○○○○○○
普通の生活條件　といふのは、人間が生活して行くには、誰にでもなくてならぬ條件でありまして、此條件が通常より變れば病氣が出來る、それて病氣を豫防しますのには、此條件を通常より變へないやうにせねばなりませぬ、その條件は次の通りであります。

第一　瓦斯の交換　瓦斯の交換といひますのは空氣中にある酸素を吸ひまして、身體の中(血液)にある炭酸を外に吐き出すのでありまして、此の作用を呼吸と名けます。

酸素は、御承知の通り空氣の中に、隨分澤山にありますから、廣濶の空氣中で瓦斯交換が妨げらるることはありませぬ、けれども小さき室に多數の人が集まりますと、此條件は忽ちにして妨げられます、そうして室内の酸素の量が百分の二乃至三（容積にていふ）となれば其室内にある人は死にます。

呼吸を掌どつて居る所の筋肉や、神經などが、その作用を失ひますると、同じく瓦斯交換は妨げられます、これは腦病、神經病などで往々見る所てあります。

呼吸をする道、即ち鼻や、氣管、或は咽喉がふさがつた場合にも同じく瓦斯の交換が妨げられて、甚しきは死に至ります、これは鼻、咽喉、口腔、氣管などに腫物が出來たり、咽喉に大なる物が這入つたり、又は實布垤里などで咽喉に膜が出來るときに現はれて來るのであります。

第二　體溫の保有　人間の生活の要件の第二は體溫を保つて行くといふことであります、それて人間の體溫は攝氏の三十六度五分から三十七度五分といふのが普通でありまして、この體溫を保つて行かないと、人間は死ぬる、此常度より下つても死にます、これより上つても死にます、今日までの經驗に

よりますと、體溫が攝氏四十四度から上になれば生活することは出來ませぬ、又體溫が下つて攝氏二十度となれば其人は死んで仕舞ひます、で我々人間が生活して行かうと思ふには、體溫を右の常度に保つて行くといふことが必要であります。

御承知の通り人間は裸體であります、外の動物は何の動物でも、皆生れながらにして着物を着て居りますが、人間はどういふものか、生れてから死ぬまで裸體であります、それ故に、その體溫を保つて行くといふことには工夫を要することであります

攝氏十九度の溫度の室内では戰慄がし、ずつと寒くなると皮膚に凍瘡が出來、凍傷に罹りて皮膚が壞疽に陷り、遂には凍死をするのであります。

人間の皮膚には毛がないから、寒氣を感ずることが甚しいばかりでなく、こゝには血管と神經とが澤山ありますために、これが寒氣のために刺戟せられて、感冒といふ病氣を起します、それで其皮膚を摩擦する、冷水にて擦る、或は運動をしますれば皮膚が固くなり、冷氣の刺戟に遇ふも皮膚の神經が侵されぬやうになりますから感冒を起さぬやうになるのであります。

此の如く、我々人間の皮膚には不十分なる所がありますから、體溫を保つて行くといふには衣服を着ねばならぬ、食物を取らねばならぬ、家屋を造らねばならぬ、又煖室の裝置をも備へねばならぬ次第であります。

動物はこの點につきては、我々人間よりも便利を得て居ります、ルブネルといふ衞生學の先生が調べられました所によりますと、犬の毛は丁度十度だけの體溫を保ち、その目方が僅に七十グラム、これを體量に比較しますと、其二百分一になります、それで體重の二百分一の衣服を着て十度の體溫が保てる譯でありますが、人間では中々さういふ具合にまゐりませぬ。

それから、高度の熱に遇へば日射病といふものを起して、人間は死にます、これは隨分あることで、

この場合には安靜、衣服を脫がしめ、冷水浴を施し、冷き飲料を與へ、汗を出だしむるやうにするのが大切である。

又人間の身體には、風土服合といふ作用がありまして、寒い所の國に居る人が暖い國に參りましても、暖い所から寒い所に參りましても、其風土に馴れるといふ具合になつて居る、そうしてこの風土服合は暖い所から寒い所に行つたものが樂なのでありまして、例之へば日本の兵隊が滿洲の北方に參りまして寒氣に堪へるのは、露西亞の人民が臺灣などに參りまして暖氣に堪へるのよりは樂なのであります。

しかし、體溫の保有といふことは人々によりて著しき相異がありまして、其人の抵抗力、年齡、瘦せたるか肥えたるか、衰弱せるか健全なるか等によりて一樣に言はれぬのであります。

第三　食物攝取及び排泄物謝出　食物を體外より取りまして、體溫をつくり、血液及び他の體液を造り、身體中の物質の缺けたるを補ふのと、身體中て不用なる物質、即ち排泄物を謝出することは生活條件の一とつであります。

人間が食物を取りますのは、蒸氣機械に石炭を用ふるのと少しも違はぬのであります、食物は石炭で、其石炭を入れて火を焚きますと同樣に、食物は身體の中に燃えるのであります、火の熱の力で蒸氣機械は運轉するのでありますが、人間の身體も全く一の蒸氣機械と見てよろしいので、食物といふ石炭が體內に燃えて溫熱が出來、その溫熱のために色々なる力が出來て、色々の作用が現はれるのであります。

それて、人間の身體は、體重百五十四ポンドのもので、九十四ポンドは水、一五・四「ポンド」は蛋白、八乃至十「ポンド」は灰分から出來て居る。それから二十四時間の中に、身體の中から出るものを測りて見ますと。

炭酸	九〇〇グラム
尿素	四〇グラム
水分	二二〇〇乃至二七〇〇グラム

尿　一二五四グラム
大便　一三一グラム

大凡右の通てありまして、多数の検査によりますと、人間が生活をして行くには、毎一日に左の通の榮養分を取らねばなりませぬ。

蛋白質　百二十七「グラム」
脂肪　八十九「グラム」
含水炭素　三百六十二「グラム」
水分　四乃至五「ポンド」

それて、我々人間の食物の中には、右の分量の榮養分を含むて居ることが必要でありまして、若しこの條件が缺けて居りますと病氣になります。

此場合て一番、眼につくのは全く飲食を取りませぬ時で、この時には飢と渇とが顯はれて、大抵二十日以内て死んて仕舞ひます、體重から言ひますと、飢餓のために體重が減りまして、百分の四十までになりますと、其人は死ぬるのてあります、若し此場合に水を用ひますれは九週乃至十週位は生活して居られます。

犬とか、或は猫とか云ふやうな動物てあると、嗅覺を働かせまして、何の食物が自身に適當てあるかといふことを鼻て嗅ぎ別けて、それを食べる、處が人間はそう云ふ風にいかない、人間の嗅覺は動物のやうに鋭敏てありませぬから、鼻て嗅ぎ別けて、食物の善惡をよりわけるといふ譯にはいかないのてあります、そういふ次第てありますから、我々は我々の知惠をもつて、適當の食物をつくらねばなりませぬ。

万能食品ともいふべきは乳汁てありまして、乳汁の中には何れの榮養成分をも含みて居ります、しかし其中には水分が至て多量てありますから、大人の食料としては不都合のものてあります、大人で乳汁のみを用ゐて生活して行くには一日三五「リートル」即ち一升七合五勺ばかり取らねばなりませぬ。

人間の榮養に必要なるは、前にも申した通り、蛋白質、含水炭素、脂肪てありますが、蛋白質は主に

肉類に含みて居り、含水炭素は野菜類に多量に含みて居ります、それて、肉類のみを用ひて、榮養に必要なだけの含水炭素を取るには鷄卵ならば三十個、牛肉ならば三ポンド半を用ひねばならず、又野菜類のみを用ひて、榮養に必要なだけの蛋白質を取るには馬鈴薯ならば九「ポンド」、「パン」ならば三「ポンド」を用ひねばならず、到底我々の胃に堪へぬ所であります、それて我々人間の食物といふものは肉や野菜や、その他を程よく調合したものでなければなりませぬ。

食物が單調であると、榮養分の量に偏頗があつて、それが爲に病氣を起す、其著しいものは、矢苛兒倍乙苦といふ病氣であります、是は新聞紙の上て御承知のことでございませうが、此度の戰爭て、露西亞の兵隊が、旅順に籠城中に、此病氣に罹つたものが澤山ある、其原因は食物が單調て、主に鑵詰の肉などを食べて、野菜が尠なかつたために起きたのであります、こういふ風な事は外にも例があります。

食物の料理の仕方も、右に御話した事に合はねばならぬ、早く云へば料理の衞生といふことは大切な事てありまして、ただ風味のみを目當としては食物攝取の目的に背く場合が出來るのであります。

第四　官能の交替　これも人間の生活の重なる條件て、各々の器官の作用を交替するのである、例之ば脳ていひますと、一定の仕事をした後には、これを休める、即ち覺めた時と、寢た時とがあつて、勞働と安靜とを交替するのである、筋肉でも、消化器でも、すべてそうでありまして、夜晝休まずに仕事をするといふことは生活の條件に背くのでありますそれて身體、いづれの器臟でも休まさずに之れを使ひますと、忽ち病氣といふものが出來るのであります、この事は追て機會もありましたなら、も少しくわしく御話いたしたいと考へます。





大家談叢

●實驗上の育兒

此篇は醫學博士瀬川昌耆氏に請ひて抄録の諾を得たる前號の續なり

▲日光と空氣　ソコで室内に居るときは斯ういふ部屋を與へ置くとして扨此時代の小兒は多く室内に居る方が宜いか、戸外に遊ぶ方が宜いかと云ふに、夫れは無論夏でも冬でも（夏は涼しき場所、冬は日當よき暖き場所）戸外に遊ばするのが肝腎であります何故と云ふに折角良き食物を取つても日光と新鮮なる空氣と相待たなければ良き食物を取つた丈の効は奏しません、故に戸外へ出して新鮮の空氣を吸はせ日光の下に快活な遊戯をさせるのは發育の利益は何れ程か知れません。

▲風の吹く日　三歳以上の年齢に達すれば少々位風が吹いて寒からうが、其の位の事は恐れずに戸外で遊ばせて差支へありません、俗に小兒は風の子と申しますが少し位の寒い風を餘り注意深く庇護ひ過ると却つて虚弱にさせて稍ともすると寒い風には堪えられず感冒を引くやうになつて仕舞います。

▲戸外を嫌ふ小兒　夫れのみならず斯ういふ例があります、「私共の小兒は戸外へ出て運動する事が嫌ひで、室内に居て玩具を持つとか、字のやうなものを書いたりする事が好きて困ります、餘り之れでは溫順し過ぎはせぬかと心配でなりません何うしたら戸外へ出て遊びませうかと」斯ういふ事のお尋ねがあります、一體小兒は戸外へ出るのを喜ぶものであるに夫れと反對に戸外を嫌ふのは、全く遊び場所を造らせないからであります、ソー云ふ小兒には何ほ母親なり保育者なりが遊戯の方法を講じ愉快な小兒に氣に入るやうな遊び事を仕向て遣なければ困るでは有ませんか。

玩具

▲幼稚園程度　一體滿三歳になれば幼稚園に入るべき時代になつたのであるから出來得る事なら幼稚園へ行くやうにさせたいのです、尤も幼稚園の教育には之れ迄種々の議論があつたが近頃は大分改良されて無理に詰めこんで教えるやうな弊は無いから此時代に達したら幼稚園へ入れるやうにされたいものです、ソコで若し幼稚園へも行らず家庭で保育するには幼稚園で行らせるやうな課程を踏ませ運動でも遊戯でも多く之れに則つたら差支へありません。

▲天然物に對する趣味　玩具は小兒の智識と慰安とを與へるもので玩具位と輕視してはなりません、私の觀察した處では二歳以上になると兎角好き、嫌ひをして玩具を永く大事に保つことを仕ませんので自分の小兒には之れ迄高價な品を與へた事はない、夫れよりは品の安いのでも折々取換へて與へると大層喜ぶものです、元來小兒は天然物に對して深き趣味を挪らふもので定り切つた玩具よりも土砂を盛るとか又は木片などを積んだり、竹片れを持つて遊ぶなどの事を悦びます、御覽なさい雨降り揚句に素跣足て、裾を端折つた儘、潦をこねまつて手迄泥まみれにして居ます、少し位冷たからうが、ソンな事は委細頓着なして母親が呼んでも聞かばこそ頻りに愉快さうに遊戯するてはありませんか之は小兒の爲め最も悦ばるゝ遊びであるから、之れを見ても出來る丈け戸外の遊戯は天然を樂しむやうにさせたいものです。

▲趣味ある遊戯　西洋では玩具の鋤や鍬や又小車などがあつて此時代の小兒は之れを以つて遊ぶを唯一の樂みといたします、鋤や鍬を持つて遊ぶ場所は充分注意を與へ、瓦や玻璃の破片、釘の折れなど手足に危險を及ぼすものは悉く取除いて、轉んでも尻餅を突いても小兒の身體へ傷の付かぬやうに設備し、斯うして小兒を遊ばせるのです、スルと小兒は敷いてある砂を鋤や鍬にて掘るとか積むとか或は小車へ積んで曳くとか、又土を掘つて池をつくり、山を築

きなど自由自在己れが好む儘の遊戯をなし時の移るを忘れて居る、之等は發育を助くる有益な良き遊びごとであります。

▲日本公園の不完全　西洋の公園には小兒の遊び場が設けてあつて今申した樣な遊戯は心の儘に出來もするし此外の遊戯にも興を添ゆるやうになつて居るから公園へ小兒を連れて往つても遊びに困るやうな事はない、處が日本の公園などには小兒の爲めに遊戯場の設備がない之れは頗る遺憾の事ではありませんか。

健康法

▲感冒は萬病の基　身體を健全にし大人になつて一人前の強壯な體格を作るには何うしたら宜からうか滋養物を取るとか、運動をするとか、大人になつても夫々日常の衛生法もあるけれど其健康なる體質を作るには小兒時代から丈夫で病氣にかゝらぬ樣な立派な體質の基礎をつくらなければなりません、ソコで小兒時代の健康法としては先づ皮膚を強壯にし、皮膚を充分に鍛へて置かなければなりません、感冒は萬病の基と云ひますが、其の恐るべき感冒を引かぬ樣にするには強壯なる皮膚をつくらなければならないのです、皮膚を鍛へて置くのは例へば身體と云ふ城廓へ鐵壁をめぐらしてかためて置くやうなものです、此の鐵壁がもろければ從つて城の防ぎを弱らすやうなものです、皮膚が強くなければ自然身體も弱い樣な次第です。

▲冷水摩擦　皮膚を強壯にして感冒を引かさぬやうにするには西洋などでは種々の説もあり其の方法も違ふのですが日本では冷水摩擦を實行てやるのが一番よいのです、滿三歳位になつたら、母親なり保育者なりが手早く小兒の身體を冷水で摩擦するので御存じでもありませうが手拭なり西洋手拭なりで萬遍なく身體を拭いてやるのです冷水摩擦は暑中より初め夫れから秋及び冬に入つても絶えず實行するやうになさい、一日行つて二日休むやうでは決して其効力が顯はれ皮膚を強壯にする事は出來ないのです、

尤も感冒を引いて熱氣のある時などは無理に實行せずにお控へなさい、夏の頃から始めると冬になつても小兒は冷たいの寒いのと云ふ事は申しませんて、却つて身體に故障があつた時冷水摩擦を休むのを厭がるやうになるものてす

▲皮膚の強壯になりし證據　他外から見ると寒中僅か滿三歳位の小兒を裸體にして、冷水摩擦を實行るのは何んなに寒からうと思はうが、當人は左程に感じないものてす、之れは即ち皮膚の强壯なる證據で、誠に良き習慣をつくりし成効者と云はなければなりません、斯ういふ勢ひだと小兒も感冒を引かないて强壯に完全にズン／＼と發育いたします。

▲西洋の冷水浴　西洋ては冷水摩擦てなく冷水浴を實行せるので、之れも夏から始め最初は溫味のある水を浴びさせ、段々溫度を低くして遂には列氏十二三度位迄の冷水を浴びさせますが、何うも此方法は未だ日本育兒の習慣にては適當せぬやうに考へられます、夫れ故冷水浴よりも先づ冷水摩擦を實行するやうに猶此外に皮膚を強壯ならしむる方法がありますが次ぎにお咄し致しませう。

海水浴と冷水摩擦

▲海水浴　冷水浴ても、冷水摩擦ても冬季の寒空になつてから思ひ立つて實行るのは感冒を引かせる基てあります、皮膚を强壯にする事に就いては夏の頃から冷水摩擦をお初めになる代りに海水浴を取るも其の一良法て御座います、一體海水へ身體をひたすと鹽分の刺劇て、皮膚をかためるのです、海水浴場へ往つて夏をすごした小兒を御覽なさい、身體中全然銅色になつて皮膚をば堅固に鍛へ鹽分で染め上げてあるのてはありませんか、爾うして追々夏も去り秋風の立初める頃からは引續き冷水摩擦をおはじめなさい、斯んな順序にして皮膚の健康法を圖ると苦もなく寒中の冷水摩擦を實行が出來ます。

▲冷水摩擦の規律　去れども朝寒の時節に水のひやりと感ずる頃、撓むやうては困る總て斯ういふ事は三度の食事を朝晝晩と定めて置く如くに一ツの規律

を立て丶朝寢床を離れて直ぐに冷水摩擦をしてやるとか、朝飯が濟んだら始めるとか矢張り母親の仕向け方一ッで實行るものですから、最初の中は尚更の事母親が奬勵いたさなければなりません、尤も熱氣の發る時などは止めるやうに毎度申す通り杓子定規が大禁物であります。

▲海水浴の方法　海水温浴は何うであらうかと云ふお尋ねがありますが、之れも皮膚をかためる上に於て至極良い方法で之れは一年中絶えず實行て良いのです、又初めて海水を浴びせる時ですが母親なり保育者なり抱いて海へ入ても假に海水を浴びせるとか不意に驚かすのは宜しくない、先づ足の先から徐々と海水へ浸すやうになさい小兒は快よく喜んで居るものです。

▲冷やかなる着物　其他着物を着換へさせる時ですが寒中などは稍もすると温めて着せますが此様間違つた事はありません、冷たい着物を着換へさせるのも皮膚を强壯にする方法の一ッではありませんか、或る母親のお方が朝は小兒に冷水摩擦を實行せ乍ら夜寢せる時は寢衣を温て着換へさせたと云ふ事を聞きました、尤も小兒の方で寢衣は温める事のやうに思つて居たのだらうで之れは一ッの惡い習慣となつて居つた事と思ひます、斯んな矛盾なことは假初にもないやうにいたしたい、併し玆に御注意迄申すのは虛弱なる小兒の事です、斯ういふ小兒には虛弱なりの取扱ひをして矢張り着換へる着物は温めてお着せなさい、元來體質の虛弱い小兒と强壯の小兒と其取扱は各々別にいたさなければなりませんです。

育兒失敗の實話

▲之れが大間違の基　育兒法はナカ〳〵一通りならぬ困難なもので親達が周密なる注意の上にも尚一層の注意を拂はぬと動もすれば飛んだ過失を醸し取返しの付かぬやうになります、何れの親達でも小兒の保育を大切に思はぬ方はありますまい、誰でも一生懸命、出來得る限りの力を盡すのは言ふ迄も御座いませんが、育兒の心得なり、其の注意なりを充分に

咀嚼せずにヅーと表面丈一通り呑込んで仕舞ふので大間違を來すのであります、私は過般も育兒法に就いて親達の失策を生ぜし事を實見致しました、親達へ御注意の爲めお咄し致して置きませう。

▲大切な注意を誤る　大分北風の吹く寒い日てありました、小兒が病いから急に來て呉れとの使故、早速參つて見ると未だ初生兒時代の小兒て漸く生後一週間經つたばかり、診察いたすと親の注意が足りなかつたので溫ためる度合ひが渺すかつたからトウトウ冷して仕舞ひ、頗る危險な狀態に瀕して居りました、父親の云はるゝには「家内が懷姙して居るから育兒の事には充分重きを措き報知新聞の實驗上の育兒は毎日精讀し殊に初兒の事とて何事も無經驗故一層注意して讀で小兒が產れたら其の通り實行しやうと決心して居ました、處で妻も幸に出產も輕く、安心いたしたが生れて四日目頃から兎角小兒が泣いて、不機嫌で困りましたけれど、先づ自分では粗忽のない積りで育てゝ居つた、ケレども日增に狀勢が惡くなるので御診察を願ふ次第てあるとの事てある此のお咄しを聞いたとき私は「夫れ程御注意のあつたものを尤も生兒の危險に陷り易い體溫を冷却せしめて仕舞つたのであらうか、初生兒時代には冷すのが一番危險だとお咄し仕て置いたし其取扱ひの方法迄も注意して置いたものを」と尙段々父親のお咄しする處を伺がつて見ると、全く私　のお咄し仕て置いた大切な條件の御實行を誤られたのであつた。

▲お見落しのないやうに　氣候も寒し、初生兒を冷してはならぬと先づ湯たんぽを入れて置いたさうです、之れは誠に良いお考へであつたが、湯たんぽの入れ方を誤られて仕舞つたのが抑も小兒を危險に陷らせた基てあります、お咄しによれば湯たんぽを一個小兒の裾の方へ入れたのみてあつたさうだが、段々小兒が冷へるので一家當惑の外なく遂に古老の意見て母親の體溫で溫めるが宜からうと其通り遣つても見たさうだ、併し其位の手當では此頃の氣候て迚も溫まる譯には參りません、前にもお咄し仕て置いた

通り小兒の寢せてある左右へ各一個、夫れに摂へ一個都合三個の湯たんぽは是非共必要です然るに湯たんぽを入れる事には折角お心付かれても其方法迄深く御注意の屆かなかつたのは實に遺憾なことでありました、之れは育兒上實地に失敗した方のお咄してすが、私は呉々も御願して置くのは此講話を唯素通りに御一讀なつた斗りでは今申したやうな失策を來し、其取扱方法を誤つて折角御注意になつたお考へも滅茶〱になつて仕舞ひますから何うぞお見落しのないやうに一言婆心ながら申添えて置きます次ぎには小兒の大切なる歯の養生法に移ります

歯の養生法

▲何故歯を大切にせざるか　幼稚兒時代には既に歯が生へて食物の咀嚼を全くするが之れは消化作用を起す最初の入口であります、故に歯の保護の大切なるは申す迄も無いが兎角世人の歯の攝養に冷淡で少し位惡い箇所が出來ても一日送りにし、例へば胃腸の病ひに罹るとか、外の疾病に冒された時のやうな注意を拂いません事が殆んど一般の惡い習慣を形作つて居ります歯の大切な事は消化作用の上に胃腸の大切なる　少しも變りはないのに親からして歯の事は投遣りて其子が少し位缺損を生じても其内に良い機會があつたら歯醫者に見て貰はせやう」と云ふのが關の山、現在齲歯でヒー〱泣きても仕なければ直ぐ歯醫者に診て貰う抔は先づ無いと云つても良い程世人は歯の事に重き注意を置きません甚しき心得違ひではありませんか。

▲歯と營養の關係　歯に缺損があつて充分食物を咀嚼する能はざれば、胃腸は夫れ丈消化に餘計な骨を折らなければならぬ、一度や二度なら兎に角永い間には自然消化作用を害し從つて營養上非常な障害を及ぼします、此理は誰人にも御了解になり易い事でせうが、扨て今度は夫れと反對に營養が惡くなると從つて歯に故障を釀すのであります、ソーなると歯の惡い爲めに營養を害し、營養の惡い爲めに又歯を惡くし、互に障害を交換するやうになり益々歯も惡

くなれば、益々營養も惡くなる、之れを考へたら齒の惡いのは何れ丈健康を害するか、何れ丈消化を害して、何れ丈營養を害するか思ひを此處に潛めたら何人も齒位と等閑に致されますまいと信ずる。

▲完全な齒並の人少なし　誰れに聞いても滿足の齒を悉く備えて居るのは至つて稀であるが、之れは全く齒の攝生法が惡いからで、肺の攝生も、胃腸の攝生も人々の重く注意する如く、齒にも充分攝生法を加へなければなりませんが、齒に就いて觀察すると實に妙な現象のあるものです、御覽なさい文明の進步して居る人程齒が汚ないではありませんか殊に西洋婦人など服裝と云ひ假裝と云ひナカ〳〵凝つたものですが齒の汚ないには驚きます、處が印度人の如き未開の者の齒は誠に奇麗に眞珠をならべたやうに眞白です、アノ皮膚の黑い顏へ眞白い奇麗な齒を現はすのは黑人相應の美を備へるのでせうが、文野の程度と齒の攝生と全く反對の結果を來して居るのは不思議の事ではありませんか。

▲齒は滑澤なるべきもの　一體齒の發育する時代に其子の身體が惡いと决して齒が丈夫に發育しないものです、夫れ故齒を丈夫にして完全なる發育を遂げしめんには幼兒の時より身體の健康を先きにしなければなりません、元來齒は滑澤なるものなるに尫弱い兒の齒を見ると多くは、欠けて居たり、褐色に染つて居たり、光澤もなく粗造になつて居たりする、斯の如く不完全な發育の惡い齒並の小兒には母親が平生注意を怠らずに其の保護法を講じなければなりません、齒は何うして惡くなるものであるか先齒の構造から詳しくお咄し致さう

齲齒の原因

▲齒の構造　玆にお咄し致す齒の攝生法は獨り小兒の爲めのみでなく、大人の爲めにも御參考となるやう申上るのであります、齒の構造は何から成立つて居るかと云ふに齒根、齒頸、齒冠の三部分からであります、齒根は顎骨の齒槽中に埋まつて居る部分、齒頸は齦で被はれて居る部分、齒冠は齦から外へ顯

はれて居る部分を云ふのです元來歯は骨質から出來て居て中心には小さき空虚があつて、神經や血管が此中を通つて歯牙の營養を司つて居る、デ骨質を其僅存して居るのは歯根と歯頸て歯冠は琺瑯質で堅く被れて居ります。

▲玻璃の如き琺瑯質　琺瑯質は歯の生存上非常に大切なものであるが、其質は頗る堅牢なもので容易に酸類に侵されない之れを物に例へれば恰も玻璃に等しいのであります、故に琺瑯質に被はれずに骨質のみてあつたら、忽ち食物中の酸類等に侵され歯は忽ちに朽腐て缺けて仕舞うのである。

▲琺瑯質の枯裂　此通り堅牢なる琺瑯質をもつて歯冠を被ふて居るにも係らず何うして齲歯が出來たり歯が缺損たりするのてあらう、夫れは丁度玻璃のやうな堅いものでも打てば細かく割れるやうなもので琺瑯質に枯裂の出來るのです、之れは肉眼にてはナカ〱見えぬ程のもので、顯微鏡の力を借りて初めて分る位の枯裂が稍もすると出來るのです、爾うすると其枯裂からして化學的作用を起すべき酸類即ち食物にも酸類があるし又食物の殘粕が歯の間へ殘り其れが一種の酸を造つて爾うして枯裂から侵入する、左もなくば黴菌が其の枯裂から入るやうな譯で夫れが骨質の部分へ達する時は容易すく腐され今申す通り齲歯になつてボロ〱缺けて仕舞ひます。

▲歯頸と歯齦の隙間　夫れでは琺瑯質が完全で少しの枯裂がなくば齲歯にはなるまいかと云ふにまだまだ原因があるのです夫れは歯頸と歯齦と密着して居ないとソコから今申した化學的作用を起す酸類や又黴菌が遠慮なく飛込むのです、故に歯が浮いたときは歯頸と歯齦と密着しませんから充分御注意のあるやうに致したい。

▲歯石の害　又歯頸と歯齦と密着すべき妨害物は即ち歯石で御座います、此歯石は唾液と食物とより出來る炭酸石灰で之れが歯へ附着すると段々にひろがるもので歯齦と歯頸の間へ侵入し刺戟を與へると終に密着を妨げるやうになり歯齦と歯頸の間へ隙が出

求る先づ斯くの如き順序で齲歯が出來て來るから小兒の時から親々が注意して常に豫防法を講ぜねばなりません。

●海外衛生狀況

私立大日本衛生會審事員として赤痢病原發見者とかいぐわい著名なる醫學博士志賀潔氏の同會雜誌上に報告せられたる海外衛生狀況は頗る詳細に亘り極めて有益なるものなれば今其報告を骨子とし諸々を極々かいつまんで抄錄す。

第一章には海外各國に於ける人口の動勢を統計表を擧げて示され且出産の多少を說かれて曰く。

出産の尤も多きはロシヤ英領東印度、獨逸帝國次は日本であつて何れも人口千人に付三十人以上の出産である尤も少なきはフランス、ブリュッセル次に熱帶地方のブラジル、ウオデジヤネロー、ハワイ（其首府ホノルヽ）にては極めて少なくして人口千人に付き十五内外に降て居る。

出産中死産の多きはフランスで毎年世界中の首位を占めて居るフランスの七百十三の大都の平均統計による生産千中死産六四、五を占めて居るベルリンでも三六、〇に達して居る。

死産の多きは私生兒の多きと並行して居る然し死産殊に私生兒の實際の數は統計上に現はれて居らぬ兎に角に歐洲の所謂繁華なる都と云ふものは之を道德上より觀察すれば上面は美麗なる花環を以て飾て居る棺桶であつて私生兒の多きは云ふまでもなく墮胎其他によりて之を故意に死産とするものが甚だ多いに違ひない或は暗より暗に埋られて届出なく表面に現はれぬものは幾何あるや殆んど知るべからず例へば獨逸では妙齡の未婚女にして溫泉地に獨りで轉地したと云ふときは暗より暗に送る螢當をする爲めだといふ事はある溫泉地には「マッサージー」と云ふ看板を掲げて墮胎を本業とするものが甚だ多い兵士の好伴侶たる下婢の如きは尤も盛んなる私生兒供給

者てあつて彼等は胎兒の發育せざる內に墮胎し之を下水內に投じ或は潜かに「ストーブ」內に入れて燒却法を行ふものが少くない嘗てフランクフールトの下水消毒所に行きしに其監督者は下水と共に胎兒の流れ來るもの少なからずといへりとぞ尙死產の多きは生活の困難なるも大なる原因を爲して居ると思ふパリの如く家產を數多の子女に分與することなく成るべく一子に續がしめんと苦心し居る所にては勢ひ死產が增加すると思はれる日本にては此の如き狀況のなきは尤も賀すべく又大に自慢すべきことてある

(中略)

歐洲各國は槪して云ふときは結婚及び出產超過率が年々減少する傾きあるが如し故に獨逸の如き新興國は大に子澤山を賞勵し例へば二た子を產めば獨逸皇帝が其名親となる即ち皇帝より名を賜はり或は兄弟三人學校に居れば其月謝を免ずる等の規則があるさうてある其出產賞勵法に銳意なるは實に著るしきことて獨逸皇帝の子澤山なるは下上に傚へと云ふ筆法てあらうといふ。

次に幼生兒の死亡統計及哺乳問題を說いて曰く歐米各國に於ては出產數は隨分多きも幼生兒の死亡の爲め人口の增殖は割合に遲し又男女の出產數は約同一てあれども男兒が早く死亡する故人口より云ふときは女子が多いと云ふ是は日本と反對てあるとて歐米に於ける一年未滿にして死亡せる幼生兒の統計を擧げ生產千に付幼生兒の死亡尤も多きはモスコウ市にて三六九、尤も少きはパリスの一〇一人なり。(表略す)

歐米に於てかくの如く幼生兒の死亡數多きは何に原因するやといふに專ら注目せらるゝは哺乳てある歐洲の婦人は小供を產み落したなりて之を哺乳することを欲しない之れは其理由とも見るべきものは。

(一)哺乳其者が見ともないと云ふこと。

(二)哺乳すると早く老ゆる容色を損すること。

(三)哺乳して居ては交際社會に出られない西洋の若い婦人は交際場裏に出られないとなつたら病氣

する舞踏することが出來ないといふたら大半は瘋癲病院の御厄介になるやも知れない。

此三理由の爲めに歐米婦人は天授の義務を完ふしない即ち人工哺乳が起るのが自然の勢ひてあるそこて牛の牧畜か盛んになつて牛乳産出高といふものは非常なものてある。

所が牛乳は其化學的成分、其養分が人乳と全く同一てないといふ點は問題外として哺乳に不利益な點が澤山なる牛乳は其搾取後いろ〱の器物に入れられ數多の人手を經て早くも數時間通常半日以上もたちてから小兒の口に入る故に其間に諸種の不潔物が混入する恐れあり盛夏の候などには殊に容易に腐敗するの憂がある其結果として小兒は下痢を起し急性腸カタールの爲めに死するものが頗る多いのである故に歐米各國にては概して夏期七八月の頃になると幼生兒の死亡が實に著るしく增加すると恰も我國の赤痢統計表を見る如きてある其他又牛乳によりてチフスの大流行を來しヂフテリヤの大流行を來たした例が少くない。（中略）

ハンブルグ醫會より呈出せる幼生兒育見法

一九〇四年十二月ハンブルグの醫會は次の如き乳見養育に關する意見を呈出し一九〇五年一月より之を産科及び産婦に送與し尙希望者には無代送與す此の如くにして幼生兒の死亡を救はんとせしと。

一、幼生兒を自から哺乳するは母なるものゝ最重の義務たるべし授乳は時に或人數日の後初めて爲し得ることあるを以て早く絶望して授乳せざるは宜しからず高熱の疾病、肺結核、高度の衰弱及び醫師より指定せられたる少數の疾病以外は母が哺乳を廢するの理由あるべからす。

哺乳は母體及び小兒の健康上必要なるものにして殊に七八九月の夏期には必ず哺乳すべきことを忘るべからず。

二、如何に弱き小兒なりとも一日六回多くとも七回以上食事するの要なし每食事は三時間を隔つべし夜十一時より五時までは成るべく食事せしむべ

からず數日にして小兒は此規則に慣るゝに至るべし小兒は多く過食によりて疾病を發するものなれば之を謹むべし小兒には沐浴を怠らず衣服は時々洗濯しよく乾燥せるものを用ゐ室内には日光と空氣の流通をよくすべし。

三、小兒の皮膚發疹、嘔吐、下痢、綠色便等あり或は機嫌惡しければ直に醫を迎へよ。

四、人工的營養を施すときは稀薄せる淸淨新鮮なる全牛乳を用ふべし「コンデンスミルク」「キンデルメール」等の滋養品は牛乳より高價なり又一個月前の小兒には醫師の許可なくして是等滋養品を與ふべからず。

五、全乳は幼生兒の年齡に從て之を薄め然る後之を煮沸して用ゆべし其法は大略次の如しといへども要は薄きより漸次濃き乳を與ふるにあり又た次の量に每回一茶匙の食鹽と一食匙の砂糖とを加ふべし。

小兒の年齡　二十四時間に要する牛乳

第一週
第二週｛四分一リートル牛乳と二分一リートル水

第三、四、週
二ケ月
三ケ月｛二分一リートル牛乳と二分一水

四乃至六ケ月｛一リートル牛乳と半リートル水

六ケ月以後は全乳を用ゆ

一日の食事數及び其量

七回　食事　五〇―六〇瓦つゝ
六回　食事　九〇―一〇〇瓦つゝ
六回　食事　一二〇瓦つゝ
六回　食事　一五〇瓦つゝ
六回　食事　一七〇瓦つゝ
五回　食事　一八〇―二二〇瓦つゝ

六、哺乳器は每回よく洗滌し然る後熱湯にて洗ふべし前回の殘乳は再び用ゆること勿れ哺乳器を洗ふ「ハケ」は每日煮沸すべし（以下略）

此一例によりても哺乳問題が近來如何に注意を惹きつゝありやは明白である我國に於ては古來母體或は乳母の哺乳のみなりしが近來人工哺乳が漸次增加し牛乳の需要が盛になれるを以て今にして哺乳問題には充分の注意を拂ふ必要あると思ふ云々(以下略)

●日本婦人の初經期及月經の經過

此演說は廣島衞生醫事月報第九拾貳號に登載されたる醫學士大塚憲達氏の所說本會員には尤も直接の關係あるものなれば玆に抄錄す

前略少し社會的になるかも知れませぬが國家の盛衰と云ふものは其國民の勢力の消長如何にある其勢力の消長は其國民の成熟期の程度であると云ふことは歐洲の政治家が既に唱へた所であるし、近頃に至つて又我邦の政客も亦之を贊成して喋々するようになつた者もあります、政治家さへそれであるし、況んや吾人立脚地を胃盤內臟に置いて最も多數の人に對して、成熟期を問得べき大なる便宜の境遇にある專門醫としては等閑に附すとは出來ない積りでありますす果して政治家の言ふ通りなるや否を見よーと云ふ好奇心よりして調べて見た譯です、此事に關しては私よりも前に大分統計を取つて報告なされたのは澤山ありますが、統計と云ふものは數が澤山になければならぬ、何故であるかと云ふと數が多くなければ極く精密なるところの近似數に—近似數と云ふても數學ではありませぬ、正確に近似する、正確なる數に近寄つて行くと云ふことが難いと云ふことはマイエル氏も報告になつてある通りでありますから幾ら多くなつても益々いろ〳〵なのを合せたならば精密になるであらうと云ふ考が出て來た譯であります、私が嘗て聞きましたとには歐洲人と日本人と、成熟期即破瓜期に大變な懸隔があつてどうしても、成熟期の早い國民は盛んになれぬと云ふやうなる報告も一寸見たこともあり殊に當時東洋の風雲は未定にして勢人種の競爭なりと云ふ說日々加はりし故に自分は此產科婦人科敎室に來ましてから木下敎授の指導

の下に調査した其數が明治三十七年一月以降に二千九百二十九、實はもつと多かつたのです、二千五百七十幾つかありましたが、其中で正確なる答を爲された婦人のみを取つたのであります、さうして其初經期及經過のことだけを一寸調べて見たのであります、十年代の者が一人、十一年代の者が三十五人、十二年代の者が二百七人、十三年代の者が五百二十一人、十四年代の者が七百二十八人、十五年代の者が六百七十八人、十六年代の者が四百三十一人、十七年代の者が百七十七人、十八年代の者が七十六人、十九年代の者が十三人、二十年代の者が八人、二十一年代の者が一人、さうすると十四年代、十五年代が最も多い數であります、此總計年數を寄せて見ますと云ふと四萬二千五百八十四年九ヶ月になりますそれを總平均して見ますと十四年十ヶ月と少しになります即十四年十ヶ月「コンマ」の四ばかしになるのです、さうして最も早くあつた十年代の者が一人と云ふのは十年四ヶ月、是は東京の人ではなかつたのです、最晩期の者が二十一年と六ヶ月、是は東京と書いてあるけれども其言葉に依ると東京の人ではなかつたやうであります、此中で自分が直接に聞いて書取つて置いたのは二百九十九人ありまりますが其方の總年數は五千八百四十五年六ヶ月になつて之を平均すると十四年七ヶ月になるのです、それから最も遲いのが二十一年六ヶ月、斯う云ふ表になつて居ります

それから月經持續日數、是は二千九百二十九人の中の二十三人は唯一回しかなかつた、何日あつたと云ふ問の答はあつたのですけれど一回ですから分りませぬ、それで此二十三人は省いて二千九百六人に付て統計を取つて見たのです、總日數が一萬四千二百二十六日で平均日數は四・八九日約五日ばかりになる最も一番短かつたのが一日、それから一番長いのが十日間位ある、或は二十日と云ふたのも見へたのですけれども是は診斷が癌腫と云ふ診斷であつたのですから是は省いて入れませぬでした、さうして持

續日數の最も多い數がどの位であると云ふと三日から七日までの者が一番多くて二千九百六人の中二千二百七十四人までは三日から七日まで續いたやうです、さうすると百人に對する比例を取つて見ますと七八・二五%ばかりになるのです、それから特に自分の外來で病歷を取つて直接に聞いたもの丶中三百九十六人に付て調べて見ると四・八一八になるのです、それから是ても三日から七日までの人が最も多くて九二%ばかりに當つて居ります

それから持續日數に續きまして今度は經過ですな、毎月順潮であるや、或は不順であるやと云ふことは自分もどう云ふ方法を以て調べたら宜いか分りませぬでしたけれども、先自分は斯う云ふことを程度として調べたのです、四週から五週までにある者か正潮の者として調べて見ました、さうすると二千九百〇六人の中に正潮な者が二千百七十九人、不正であると云ふ訴をした者が七百二十七人ありました、二四・六七%、それから月經經過中に合併症狀があるかないかと云ふことを一つ調べて見ましたら是は月經困難であると云ふことの話をした者が二千九百二十九人の中に五百六十七人ありました、一九・〇一%になつて居ります、又先輩先生方の調べた數は未だ私は見當りませぬでした、さう致しますと月經困難と云ふ訴をしました者は我が外來患者に付ては約五人に一人あると云ふ割合になつて居ります

それから今度は終經です、此調査はマイエルも或はシエッフエルも言つてある通り至つて吾々專門醫でありながら調査するに困難である、何故だと云ふと材料を蒐めるに大變困る、終經期に達した婦人は吾々の所にやつて來るのが至つて少いと云ふ所からでありませう、私が二千九百二十九人の中に終經期の明かに分つて居るのは九十人ほかなかつた、どうも少數の人間に付ては統計と云ふものは不完全である、まあ確實になるかならぬか知れませぬが取つて見たから序に此處に御報告は致して置きますが九十人の中で終經期の總年數は四千二百二十一年七ケ月

になります、平均數は四十五年七ヶ月それから最も早く終經期の來たのが三十三年、遲かつたのが五十六年、であるけれども何歳頃が最も多く終經期に達するかと云ふと四十三歳から四十八歳までが一番多いやうでありました、四十五六歳位が平均と云ふことは聞いて居りましたがそれと大約一致し居ます

それから月經持續期間ですな是も調査に困難でありますす其理由は初經から終經に至る間の年限ですから終經期に達せる人を調べねばなりません九十人中最短期が二十二年、最長期が四十三年、平均三十年十ヶ月、此平均三十年十ヶ月の間は日本人が生殖機能を營むに充分なる時であると云ふことです、マイエルもシエッフエルの報告にも歐羅巴人は三十年から三十五年の間生殖機能を有して居るとある恰度三十年十ケ月は其中に這入つて居るてす、毫も吾人名譽ある黄金色人種は西洋人に劣る所はないてす

（此時壁上統計表を示して說明す）

月經持續日數
最短日　一日　最長日　十日
平均　四・八九日（七八%三—七日）
月經不順　二四・六七%
月經に伴ふ合併症　一九・〇一%
終經期
早期　三三歳　晩期　五六歳
平均　四五・七歳
月經期持續間
短期間　二二年　長期間　四三年
平均年　三〇・一〇歳

此等は氣候境遇に就ては尙調査しませぬ

是は日本で調べた數だけが斯う云ふ數になつて居ります、片山さんの調べたのが十四年六ヶ月、東京大學の報告になつて居りますのが十四年八ヶ月、安田君のやつたのが十五年八ヶ月、楠田君のやつたのが十四年七ヶ月、髙田さんのが十四年六ヶ月、大阪の緒方老先生のやつたのが十四年十ヶ月、それから榊さんのが十四年九ヶ月、山田さんのが十五年九ヶ月それから木下敎授のやつたのが十四年十ヶ月、熊本の山崎正董君のが十四年十一ヶ月、それから大阪の若い緒方先生のやられたのが十五年四ヶ月になつて

居ります、それから著者ではありませぬ（笑聲起る）、私の調べたのが是は赤い筋が十四年二ヶ月になつて居りますが是は間違てありまして十四年七ヶ月、それから敎室の病牀日誌中最も正確なものを取つて計算したのが十四年十ヶ月になつて居ります、それからマイエルのは獨逸の伯林の人のは十五年九ヶ月になる、それから伯林以外で生活して居るものを調べたのが十五年二ヶ月になつて居ります、是には田舍の方が早くなつて都市の方が遲いそれからシエツフエルのが十五年七ヶ月、是は少し早くなつて居ると云ふのはシエツフエルも斷りを言つて居る、何故かと云ふと私の統計は伯林の人と田舍の人と一緒になつて居る、伯林の人は其中十四%幾らかなかつたから田舍の人の方が多いからそれでマイエルのよりか私の方が統計數は少いのであると斷りを言つて居ります云々

●冷飯と消化に就て

麥飯の中に枯草菌なる消化菌あることを發見されたる東京衞生試驗所技師八木長恭氏は又冷飯中に消化菌の多きことを說かれたる大要を見るに

▲枯草菌の性質　枯草菌は何の植物によらず附着して居ますが殊に米、麥、甘藷、馬鈴薯、大根等に多いのです、元來此菌は澱粉を砂糖に變ずる働きをするものです其順序を申しますれば澱粉からデキストリンになり次に麥芽糖となり更に葡萄糖となり夫れから砂糖となるのです、枯草菌は右の樣な働を持て居ますから之が日本人の常食たる米の中にあると云ふのは何よりの事です

▲米はザツト洗ふべし　枯草菌は米粒の外部なる所謂糠の附着して居る部分に附いて居るのですから若し御飯を炊く時少しも糠の無くなる樣に洗つたならば枯草菌を洗ひ流しますから先づ水の濁らぬ程度に洗つて置く必要があります

▲枯草菌は冷飯に多し　元來此枯草菌は强度の熱に

遭へば悉く死にますから炊き立てのホヤ／＼飯には枯草菌は少しもありません、然し枯草菌の生ずべき芽胞は强度の熱に堪へますから炊き立ての飯中にも芽胞は生存して居ます、そして此芽胞は飯の冷ゆるに從つて漸次に生長して遂に全く飯の冷へきる頃には再び深山の枯草菌を生ずるのです、

▲冷飯の効用　右の理由から飯は炊き立てのホヤホヤよりは冷飯の方が速く消化するのです、世人が茶漬は早く腹が空くと云ひますが、あれは全く根據のない事ではなく此枯草菌が存在するに基くのです、ですから腸胃の弱い人は温かな飯を食はぬ樣にすれば自然消化力を助けます云々

▲兩樣の試驗　八木技師は斯く語りつゝ立つて二個の試驗管を示されて曰く、此の一つの試驗管の米を何度も／＼丁寧に洗つて少しも糟を止めぬ樣にして飯に炊いたものです、又一つはよい加減に洗つて飯に炊いたものです、そして此二個共に人體と等しき温度で温ためたのですが御覽の通り前のは少しも飯の形を變へて居りませぬに引代へ後のは此の樣にどろ／＼の液體に變じて居ます是れ前者は米の中の枯草菌を洗ひ去つた爲めで後者は其中に存する枯草菌の作用で飯が既に消化したのです、冷飯に人體と同じ温度を與へますと凡そ四十八時間にして澱粉は變じて砂糖と變じどろ／＼の液體になります、此の試驗の結果に照しましても枯草菌が米飯中にて働く作用が分りましやう、彼の下女や下男のブリ／＼と肥つて居る達者のも、旦那樣や奥樣方の何時も弱々しいのは此ホヤ／＼飯と冷飯の關係が與かつて力あるのでしよう云々。

●人と牛の結核菌

（佐多博士の談片）

▲佛國リーエ大學教授カルメツト博士が肺結核豫防法を發明したことであるが其結論は甚だ簡單なものて之を實際に施すことも何の造作もなきやうに聞ゆるかも知れぬが實に却々複雜なので一歩を誤れば非

念な危險に陷ることにもなれば又全く無効に歸することにもなるのである▲殊に此簡單に見えて然かも其實複雜な結論を見るまでに如何程複雜の研究を費されたか知れぬ程なので其の筋道に人の結核菌と牛の結核菌とが互に搦み合つたところが頗る興味があつて面白いのである▲先づ今から五六年前までは人類の結核も牛類の結核も異つたことはない其菌は共通のもので人から牛にでも牛から人にでも互に傳染するものである從つて牛乳を飮むには煎煮さなければ危險であると一般に認めて居た▲所が夫の有名なコッホは此說に疑を起して種々研究を重ねた結果牛は牛同志人は人同志結核菌の傳染をするが人から牛に傳染することは絕えて無く稀にあるのみであると言つた即ち牛の菌と人の菌とは性質を異にするものであるといふ所から之を逆に推論して牛の菌を人に接種しても人はそれに冒さるゝものでない人は只人の菌に冒かさるゝばかりだとの斷定を下してその結果牛乳の消毒は無用であるとの說を千九百一年に倫敦で報告した▲かういふ說が出て見ると只に學問上の興味のみでなく牧畜業に對する國家經濟上の大問題なので其後各國の政府でも盛んに其確否を反覆研究せしめたが獨逸の衛生院に於て多くの學者が聯合して種々の研究した結果人の結核の大多數は人同志の菌から來るのであるが稀には牛の菌から傳染した實跡のあることと及び稀には人の菌も牛を害することを確めたのでコッホの說は半ばその價値を認められたか牛から來る危險に對する豫防は依然として元の通り必要だといふことに確定した是が昨年のことである▲是に於てコッホの說は半は破壞されたのではあるが然かも夫から後はコッホの立言か基礎となつて更に種々の試驗が行れるやうになつたベーリング博士の牛に對する人菌注射試驗の成績等も即ちそれでこれは血清療法を行ふた牛と行はぬ牛とを一つの厩で結核に罹つた母牛の乳で育しゝ見るに此注射をせぬ幼牛は皆結核に斃れて了つたに拘はらず注射をして置いた幼牛は見事無難に育つたことを解剖の

成績に證明した▲この説明から反覆推論して人に對しても有効なことは醫學者間の皆認むる所であるが然かも生きた菌を試驗のために人に接種することは行へぬので醫學者等は又さま〳〵に煩悶苦慮の結果人の菌よりも一層弱い結核種を探し求めて到頭冷血動物の一種の菌で試みたが尚十分の成功を得なかつた即ちベーリング博士のも遂に牛の免疫に止まつて人には及ぼし得なんたか段々近寄つて來たことは來たのである▲折柄先頃の月桂冠を荷ふたのが今度カルメツト博士で博士はベ博士の血清療法を手ぬるいとし先づ人の菌を幼牛に内服せしめて第一の成功を博し更に人のよりも強い傳染性のある牛菌を五分間沸煮したものを四十五日隔て二度内服せしむることに依つて牛の結核に對する疫を確めた▲さあ此の實驗が出來るといふと今度は夫れを應用して人の生きた結核菌よりも弱いものを得る工夫が着いた夫れに前と同しく五分間煮沸して傳染の危險を取り去り然かも幼い時から人の體の素質を免疫症のものとすることが出來るといふ結論は到達したのである▲して此幼兒といふことが却々大切なので元來初生兒の腸の粘膜は稀薄で黴菌その他の毒素が自由に進入することは出來るが生後已に數週間を經るゝ粘膜が肥厚して此目的を達し得ないためである▲兎に角この發見が將來又幾多學者の實驗によつて愈々事實となるの日は遠くあるまい否かくいふ結論を發表するまでには十分確かな實驗を要することだらう▲但し以上は凡てまだ豫防上のみで治療といふことに向つては更に大いに研究を要する事であるだから且つ結核患者となつた疑ひのある者は其上に他の黴菌が混合せぬ先に早く治療を受くるが何より肝要である

●秋季と胃病

（長與醫學博士談片）

追々氣候が涼しくなると消化力が振興する爲に食欲が自然に增して來る其の爲めに一般の世人が知らず〳〵暴食して急性胃加答兒を起し不攝生の結果胃弱

となり遂に慢性となるのが隨分多い總て時候の移り變りは總體の衛生を注意する必要があるが殊に秋季は食事に就いて氣を付けねばならぬ

▲急性加答兒　は通例喰ひ過ぎから來るのであるから若し夫れに罹つた時は充分に辛棒して胃を乾かし消化力の回復するを見て少量の粥を用ゐ夫れから次第に少量の軟らかな飯或いは牛肉、豚などを食ふやうにし運動を怠らぬ樣にすれば十日も經ずに癒るであらう

▲胃弱　となると之れは急性胃加答兒の樣な簡單な養生では癒らぬものだ併し世間の多くの人が胃弱とさへ云へば天麩羅はいかぬ鰻も牛肉も豚も食れぬものと極て了つて唯粥とスープ位で辛棒してるのは大いなる間違ひだ之れが爲に反つて本原の身體が營養不良の爲めに衰弱し果ては肺病患者ノ狀體になると が多い又た假令幸に慢性とならずに全癒したとても少し硬いものを食へば直ぐ胃が痛み出すので生涯西洋料理など食へぬ事となるそうかと云つて胃弱の者が總て常の通り何でも食して胃に障害はないかと云へば一概には云へぬが患者に付て試驗して見ると徒らに食物を制限して其の爲めに長引し遂には慢性となつて居る患者が多くある併し此の食物を制限して良いか又は常の通り食して養生するのが良いかの區別は素人にちよいと困難の問題であるが經驗の結果胃病患者の多くは飲食物を制限せずに養生する方が良いかと思ふ

▲慢性胃弱　多くの慢性胃弱の人が矢張り飲食物を矢鱈に制減して養生して居る其の結果はどうであるかと云へば矢張り不結果の方が多いのである始めは軟かな飯を三椀食して胃が痛む二椀にする痛む一椀にする痛まぬが空腹を覺えるから辛棒ができず粥にして三椀食する始めは痛まぬが一週間もするとまた痛む二椀にする暫くすると又た痛む遂に床の中に呻吟する樣になるが是等が十中の七八部は徒らに食物を制減して養生する結果である兎に角胃は人間生存の原動力であるから左樣輕々にするのは間違ひてあ

るが誰も胃病は食事の時直ぐ減じるものだから其場丈けで食物の加減をして見るのが間違ひの原理であらう前の樣に食物を制減して癒るのが早いかまたどうしても食物を制減せねばならぬ胃病の性かの區別なく同じ手加減の養生をするから困難になつて來るのである

▲運動　誰人も食後は運動せねばならぬ事と決て居る病氣の人も健康の人も一樣に運動は必要であるが食後直ぐ運動したり或は僅か三十分か一時間經つて運動を始めるのは消化不良の大原因である殊に學生などは食後三十分位すると直ぐボートを漕ぐ金棒をやる隨分激烈な運動をするが是れは非常に惡い食物の消化は少くとも食後五時間以上の時間を要するのであるから先運動をするなら食後三時間位の後にするが好いさうすれば消化の幇助になるが食後直ぐ運動するのは反て消化力に多大の障害を與へるのであるから運動は尠く共二時間以上三時間は安靜にして呼吸運動でもして居て夫れから後て烈しい運動をするのが良からう之は學生等に特に注意すべき事であるが胃病の人などには殊に大切である云々

●養性論

日本弘道會夏期講習會科外講義に醫學博士三宅秀氏の講演せられたる養性論の大要を得たれば左に掲ぐ

▲養性は養生に通じ昔は專ら性の字を用ゐたり而して予の玆に云はんとする所は即ち養性にして精神を昔に採り基礎を最近の學理に置く今日世間に云ふ所の養生とは病體を養ふの意味に用ゐ衛生とは病魔に犯されざる樣健康體を保持するを云ふ從來歐洲に於ては醫學、衛生學等は總て生物學、物理學、化學等の自然科學のみを基礎として研究し來りし處今日に於ては醫學、衛生學と雖も全く形而下學のみに據り哲學、心理學等の力を借らざる時は眞に病氣を醫し或は眞の衛生たると難しとの說起り古來支那、日本に於て唱へし養性論に注意するに至れり例へば近時

教育界を騒がし丶學生花柳病の問題の如きも直接の治療には醫藥を用ゐざる可からずと雖も其遠因は國民の風教の頽敗にあるを以て精神上に根本的匡正を加ふるにあらずんば眞の健全は保し得べからず之れを心的衛生と云ふ

▲衛生を解釋して單に疾病を防禦し健康を維持すと云ふは狹義にして之れを廣義に云ふ時は負傷の豫防も亦た衛生の事に屬す故に天災等による避く可からざる不慮の負傷は別として一般に見るときは負傷は心の怠慢、精神の弛緩に基くものにして折骨裂肉は單なる結果にして機械的作用ならむのみ之れを統計に徵するに現今負傷者の多數は橫着、不注意に基くと多し銀座の破屋事件も嚴密なる建築條令の有無に拘らず風雨にも堪へざる如き家屋を其儘使用するは道德上甚だ不都合なり之れを心的不衛生と云ふなり又甲武鐵道の汽車顚覆も日々數萬の貴重なる生命を預る以上は常に各車輛の檢査を充分に爲し置く可きは勿論にして唯法律上の檢査のみに委ぬるは道德上の罪人といふべし

▲次に疾病に就て云はんに疾病は一般に惰弱に基くものにして奮起勉勵は病を擊退するに足るなり日露戰爭の前半期三十七年開戰當時に於ける我國民の衛生狀態は大に見る可き好成蹟を擧げ出征軍人の戰病者同一數なりしは實に歐米先進國に對して誇るに足るのみならず內地に殘れる一般國民の衛生狀態も同年は各地の開業醫が軍醫に徵發せられ醫師の數非常に減少せしに拘らず町醫は却て閑なりしが如き國民一同眼前に祖國興敗を控へ互に奮起勉勵したる結果精神の緊張が身體を强健とせしめたるに外ならず徒に美衣美食するは決して衛生的ならず心的衛生より云ふも却て病魔に對する防禦力を薄弱ならしむに過ぎず

▲抑も人間の身體には自然に疾病を防禦する機關備はりをれり其は主に血液の循環にして之れを司るものは心臟及び脉管なれども更に之れを主裁するものは神經即ち精神なり故に精神に異狀ある時は血液

の循環に障碍を來すを以て直に食味、顔色に變化を顯すは吾人の日常實驗して知る所なり稍專門に亘るの嫌あれども血液中の血球に白血球と稱するものありて其内に又血清とて顯微鏡にて見れば僅に黄色を帶ぶる透明體のものありて黴菌を破壞するの効あり而して固有の血清にて防遏し得ざる時は人造血清を注射するにあり而して血清の黴菌に對する作用は或は血清球が之を包括するなりとも或は之れを死滅せしむるなりとも云へど要するに其は形而下の論にして其根本原因は憂鬱或は恐怖等精神の薄弱に基づく事多く所謂「弱身に祟る病神」とは此の意に外ならず又某學者は精神の宿る所は腦にあるを以て腦を分析したる結果腦中の或成分と同一のものを魚類に發見して大に魚食を奬勵したるとありしが斯る算數的方法によりて悉皆を知り盡さんとするは科學萬能主義の弊にして予は人間の身體にとりて德義程の滋養物は無しと確信す試みに思へ人一罪を犯さんか良心の苛責は一生を通じて晝夜間斷無く遂には精神に異狀を來し肉體を破り生命を失ふに至るなり之れを余の養性論と爲す云々

●育兒の栞

▲牛乳は効少なし

（ドクトル　加藤照麿氏談抄）

近來世間一般に衞生と云ふ事を重んずる樣に成つたのは誠に賀すべき事であつて殊に育兒など云ふ事に就ては兩親の教育が進步したに伴つて一層注意が屆く樣に成つたのは一般の人が認めて居る事であります其點から割り出して見たならば小兒の病氣とか死亡とか云ふ事は追々少なく成るのが至當である。が事實は全く之れに反して近來吾が國に於いても幼兒の死亡數が頓に增加して來て極く近い統計に依ると一ヶ年間百人の幼兒に對する二十三、七の割合に死亡して居ります。て以前は決して斯る多數の死亡は見なかつたので。單り吾が日本斗りでは無くして海外でも獨逸の某國の如きは百人に對する四十の割合に死亡がある樣な譯で開けた

國程其れが多いのでありますが實に之れは不思議な現象といはなければ成らぬ。て其れに就いて近頃醫學社會でも種々研究して見たが要するに人工營養、即ち牛乳營養の盛んに行はるゝ國が最も死亡が多いやうであります。日本でも從來は皆母親の乳を飲ませて育てたから餘り其う云ふ事が無かつたのですが近來衞生に心を用ふる結果牛乳を非常に好い物のやうに思つて母親の乳があるにも拘はらず殊更に牛乳で育てるやうな人が往々あるので其れで斯う云ふ現象を來したのであらうと思ひます。其れからモー一つの原因は世が開けて來るに從つて婦人の交際と云ふ者が頻繁に成つて來て以前の樣に家庭に斗り引籠んで居ると云ふ譯に行かぬ場合が多い、夫れがため牛乳の餘り善く無い事を知りつゝも母親が外出した時分には何うも仕方が無いから止む無くも與へると云ふ樣な事で之れはどうしても免かれる事の出來ない事柄であらうと思ひます。夫れ故何地の國でも文明の國の小供は非文明國の小供よりは必ず死亡が多い。日本でも近來婦人の社交が忙がはしく成つて殊に婦人の教育家なんぞも澤山出來て來て母親が小供を殘して終日外出する事が隨分多く成つて來ましたから從つて其影響が幼兒の上に及ぼすのであらうと思ひます。

▲人乳を與ふ可し　然らば是等の幼兒に對しては何う云ふ方法を用ひたら宜しいかと云ふと私は牛乳で育てるよりは寧ろ乳母を置くが宜いと思ふ。若し乳母を置く事を許さぬ家であつたならば米汁とか葛湯の樣なものを牛乳の間に與へる樣にしたら宜からうと思ふ。餘り牛乳斗り與へると脂肪斗り多く成つて世上善く見るところの色の惡るいボヤ〳〵と肥つた見に成つて仕舞つて爾う云ふのは過營養と云つて醫學上から云ふと善く成いのであります。又假令母親の乳にしても餘り長く飲ませるのは宜しく無いモウ八九ケ月も經たならば徐々と米汁の樣なものを與り始めて其次ぎには粥を與へ又新らしい魚肉を混ぜて與つても宜しい。爾うして一年經つたら野菜物も

少し位は宜しう御座います。其れから鷄卵は大變好いとは云つてあるが幼兒に依つては其れが餘り適しない性質のものもあり、又一體に玉子は魚肉よりは消化が惡るく消化の惡いものは營養が取れませんて却つて其れが爲めに消化不良症を起したりする事があります之れも注意して與へなければ成らぬ。

▲牛乳煮沸の時間　又牛乳を飲用するに就いては之を煮沸するの必要なる事は誰も今日は知つて居る事であつて其理由は若しも牛乳の中に結核菌でもあつた場合には其害を人體に及ぼすから夫れを避ける爲めに沸騰させるのでありますが、一つ茲に注意すべき事は煮沸の時間であつて素人の方は長時間煮れば煮る程菌を善く殺すからして益々善い物に成るだらうと云ふ考へて三十分も一時間も煮る人がございます。之れは一寸素人考へから申せば誠に至當の事でありますが併し之れが大なる誤なので一體牛乳と云ふものは可成は生の儘で飲用した方が營養に適して居る位なのてすが、何分前申た樣な危險があるので無據其れを防ぐ爲めに煮るのであつて長い間煮ると其性質を變じて仕舞つて營養に適せなく成ります(以下次號)

●男女姙娠自在法

時事新報の所載に曰く

數年前墺太利の醫學大家ドクトル　シエンクが姙娠中の胎兒を自在に男又は女となすの法を發明したるが其後氏の死去したるにも拘らず氏の二子はヴイエンナにありて氏の遺業を繼ぎ今に其法の傳播に勉め居る由なるが近頃米國の大富豪ロックフエラー氏令息夫人は氏の法に據りて療治を受け首尾能く玉の如き男兒を分娩したりと云ふ此法發明の報一たび世上に傳はるや千里を遠しとせずして來りて療治を請ふ者甚だ多かりしも氏は自重して多くは之を謝絶し此法の傳播に與りて力を貸すが如き著名の人物に對してのみ其請に應じて療治をなし居たるがロックフエラー氏令息夫人が世界最大の財產を繼がしむべき嗣

子を擧げて夫及び養父母の喜びを買はんものとヴイエンナに至りて療治を請へるに氏の遺業を繼げる二子は喜んで之を諾し夫より佛國南部の保養地なるカンに滯在し爰にてヴインナより折〻派遣せらるゝ技師の療治を受くる事となりたるが何分食物其他の規定の八釜しきより一時は夫人の之に堪ふべきやを疑ひたりしも窒素質に富める規定の食物は意外にも夫人の口腹に適したれば療治の初期より技師は夫人の相違なく男子を分娩すべき事を證言しありたるが今や技師の證言事實となりて目出たく男子を分娩したるなりとか抑〻氏の法と云ふは男性の胎兒は女性の胎兒よりも其細胞の數多しとの理に基づける者にして療治の詳細は秘密にして之を知るに由なきも其目的は唯此細胞の數を自在に增減せしむるに過ぎず是が爲には嚴に脂肪及び糖分を禁じ多量の窒素質食物を取らしむる由なるが試みにロックフエラー氏令息夫人が用ひたる一日の献立なりと云ふを見ば其邊の概略を窺ふを得べし即ち其献立左の如し

第一回　朝食――砂糖を入れざる牛乳一椀及びビスケット

第二回　朝食――生燒ハム及び麵麭

晝食――スープ小量、炙肉（但し野菜類なし）煉直しチース

晚食――炙りたる鮮肉、チース、麵麭、小量、林檎一個

右の外白葡萄酒を混じたる水、日に三杯宛

尚ほ此献立の爲めに不消化を起すやうの事なき爲め夫人は長距離の散歩を命ぜられ成るべく手足の運動を爲さしめられたりと然れども神經を刺激するやうの事は宜しからずとの事にて療治中は全く社交界に出でざりしとの事なり

●齒の養生

ドクトル志村齒科醫院長談片

老年に及べば兎に角、壯年にして齒の惡い人、齒を

艱む人が非常に澤山ある、殊に壯年者どころで無い子供の時から味噌歯になつたり齲歯になつて一生歯に苦しんで仕舞ふ者は近年續々其數を增して來ました世界に於ける歯科治術の最も發達した米英二國の家庭ては子供も大人も歯に對し如何なる注意を拂ふてありませうか、多年米國にて、歯科專門に研究されたドクトル志村歯科醫院長は米英の實話を引證し日本の家庭に於て改良すべき歯の注意を得たれば左に之を掲げませう

▲消毒の含嗽が大切　日本て歯の治術を受けるのは痛んて堪えられぬ爲めか、歯が缺けて愈々不自由の場合てなければ歯科醫の治療を仰ぐものはない、齲歯が出來ても痛みさへなくば一日送りに投棄て奥歯が咀嚼の役に立たぬ時になつて始めて後悔するやうな次第、歯に對して斯く冷淡ては歯の惡しき人の益々增加するは自然の勢て今に於て之れが改善の策を講じなかつたら後には薄弱な歯の人斗りになつて仕舞ひませう、歯科技術の世界第一に發達して居る米國の家庭でも又小學校でも小兒時代からして實に多大の注意を拂ふ其上方法も頗る進歩したものです、先づ食後には必ず歯牙の間に挾まつた粕を丁寧に殘りなく取り去つた後含嗽をなし、夫れから「リステリン」と云ふ藥で消毒の爲めに含嗽をして置きます、歯牙の間の粕を取るには、長さ一二寸の消毒した絹糸の兩端を左右の拇指と食指で摘んでピンと張て歯牙の間を上から下又下から上へと擦るのです、爾うすれば何んな小さな粕でも奇麗に取除く事が出來る、ソコて其の絹糸は一度使用したら棄て仕舞ふのです其上ブラシ楊枝へ歯磨粉を着け上歯は上から下へ下歯は下から上へと磨き奥歯は表裏と咀嚼面を磨き前歯は表裏を磨き、夫れから後に消毒用の含嗽をするのです、普通の水で含嗽する計りでは歯の保全上誠に効力が薄弱で是非共歯を腐蝕する黴菌を殺して仕舞はなければなりません、故に米英の家庭では「リステリン」と云ふ歯の消毒の藥を備へてない處はなく下等社會に迄も之が行き渡つて居ます

▲ブラシ楊枝の取扱方　此方法は食後幷に就寝前には必ず實行する家庭の規則が立つて居る計りか母親が大層之れを嚴しく申します、ブラシ楊枝の取扱ひの行屆いた事などは日本の家庭では餘り見受けません程で使用後の楊枝は必ず百倍の硼酸水で毛の處を念入りに注ぎ、能く雫の出ないやうに水をきつて夫れを共口の無色透明な壜の中へ入れ成可く日光の射す場所へ置くのです、斯くの如き方法は有力なる殺菌法となるので歯の腐蝕を豫防するのは莫大なものです、併し之れは一寸肉眼で見分けの付かぬ事故誰しも油斷し勝ちの事ですが永年の間積つて見ると歯の保存上何れ程の利益を存するか知れません

▲一年に二度歯の検査　此の如き取扱ひをお咄し仕たら日本人の習慣から考へれば實に面倒な事と思ふが之れは仕慣れば左程面倒な事はないから是非我國の家庭にも此美風を移して實行するやうに願ひたい夫れ計りではなく米國の家庭では春秋の二季に必ず家族一同歯科醫を訪ね歯の健康診斷を受け一寸でも故障のある歯があれば直ぐに治術を受ける習慣になつて居ますが、之れ處ではない未だ〱緻密な注意の實例は澤山あるが夫れは次に述べませう

▲歯の營養となる食物　母親の歯質が惡いと其子は多く歯牙の遺傳を受け脆い弱い歯列になるから母親は分けても歯の養生を大切にしなければなりません、又歯の衛生上から考へても其營養は全く食物から吸收さるのであれば歯の素質を作るやうな石灰分の多い食物を喰べる事を心懸けるのが必要です石灰分の多い食物と云へば芋殼、蕨、狗背等の類で、從來斯ういふ食物は餘り東京人などには賞美されませんでした、處が之れ等は歯牙の營養上欠くべからざる品ですから何んとか此料理法を改良したら食卓に列して旨く喰べられる事も出來ませう、之れによつて考へると都人士よりも概して田舎の農夫などの方が歯が頑丈なるも一ツは今お咄し仕たやうな品が澤山あつて夫れを常食とする關係があると信じます

▲子供の味噌歯　元來子供には味噌歯が多い之れは

全く歯の掃除が能く行屆かぬ爲めて其罪は母親の責任に歸さなければなりません、食後は必ずブラシ楊枝を使はせ消毒した小楊枝や又消毒した絹糸て叮嚀に粕を取り去り其上殺菌の含嗽をさせなければなりません、之れが抑も大切なる關係ですが米國などては必ず此面倒は母親が保育の規則として嚴守いたします、併し日本ては未だ消毒用の「リステリン」杯は全く藥種屋には見受けませんから私は「グリスリン」と薔薇水と等分位にして夫れへ薄荷油を少量に混ぜた消毒藥を作つて置きます、之れを適宜に煮沸した冷水へ滴し、含嗽するので誰れにも雜作なく出來るから御試用なさい

▲歯に注意深き人の實例　米國の人は婦人に至る迄歯の注意は良く行屆いたもので歯の治療に參つて含嗽の水を入れた洋盃ても「此洋盃は消毒してあるか」と尋ねます夫れから又或る英國の婦人をば治療上前歯を器械て、摩擦したとき直ぐ含嗽をさせました、處が洋盃の水が冷たかつたから一寸手を洋盃に觸れて見て「之れは餘り冷たいので今迄摩擦して熱の起つて居る歯に此冷水が感じたら琺瑯質に割目が出來ます、何うか湯を注して微溫湯にして下さい」と要求されました一寸した事ても英米人は婦人ても此通り歯の知識が進んで注意深いには感服します

●酒は歯の大害　歯牙の毒になる物の内で酒も其一てあります、御覧なさい飮酒家の歯に滿足な發育はありません、酒の爲めには口腔の唾液が悉く酸性の歯に障害を及ぼす事は莫大なことで飮酒家の歯は大抵楔形に削れて不完全極まるものになつて居ます　云々

●塵埃と病氣

▲眼病と塵　近來小學校生徒に眼病患者の非常に多くなりしは事實なるが之に就て注意すべきことが色々ある室内空氣中の塵埃も其一つて之が目の病、殊にトラホームや其他血瞙炎などの發生の上に大

關係を以て居る、此れ等の塵埃はどんな處でも我々の周圍には常に多少浮遊して居る日光の照す處の外は目に見えないから知らず〳〵の中に忽せにせられ遂に目に這入つて夫れが段々トラホームなどを起す基になるので夫れ計りでなく鼻や咽喉にも這入つて目に對すると同じく病を起す基となる夫れ故衣服や頭などは好く清めて置く事が必要であるが室内も一般に清める事が尤も必要である▲學校の教室　何人も十分御承知の事であるけれども兎角無頓着なる人が多くて掃除を實行されて居らぬから改めて云ふのである、殊に學校の教室のやうな多數の人の割合に狹い處に纏めて收容する處では取り分け浮いた塵が多く又此の中に病を起す黴菌を含んで居る事が尠くないのである、獨逸、露西亞、伯林、英吉利の諸學校でも檢査の結果　非常の黴菌を認めた▲一例　多くの例の中から一つ擧げやうがドーヴと云ふ人が八個の英吉利の學校で生徒の靜かに坐つて居る際に二万から四万八千の黴菌を認め夫れから生徒が出這入りをした時に四万六千から二十五万六千の黴菌の種を立方メートルの空氣中に認めたと云ふて居ります、之が皆病を起す黴菌であつたら大變の事であるけれども幸ひにも此等の多くはそんな傳染病の黴菌て無かつたと云ふて居た▲肺病と黴菌　併し兎も角も夫れ等の多い黴菌の中に多少は病を起すものも混合して居る事があるので、現に肺病の黴菌などが塵と共に飛び散つて居るとがあると云ふ事を學者が證明して居る夫れたら此肺病の虫の外に膿汁の黴菌或は痲疹の毒や猩紅熱及び破傷風の如き傳染病の黴菌などがないとは云はれない若し又幸に其樣な恐るべき黴菌がないとしても浮いた塵などが目や鼻の奥咽喉氣管及び肺の內側抔にある薄い弱い膜を刺擊して害をなすものであります▲床油　獨逸などの學校では塵を靜止せしむる爲めに床油と云ふものを用ゐて居るもあるが割合に費用が掛らんて其結果が非常に宜いと云ふて居る、私は此等の事に就て詳い事を學校衞生と云ふ本に載せて置きましたが、どうか我

國でも一般に腟を靜止する方法に注意することにしたいと思ひます云々と文部省駿河學士の談なり



治庖會本部教場主事　安西こま子

▲鯖おしすし

先づ鯖を三枚におろし、油肉と小骨とを除き少しく強く鹽をあて三時間程おき、ザット水洗して生酢の中へ浸しおき、次に押し箱の底へ隈笹の葉を敷き詰め、手酢を振りかけ、其上へ普通より强めに炊きたる飯を枠一杯に詰め込み、其上面を平らにならし次に酢に浸しおける鯖を取出し布にて酢を拭ひて飯の上へ一杯に敷きつめ又其上へ隈笹の葉を被せ、蓋をなして適量の石又は煉瓦を乘せ半日以上一日間程おきて適宜に庖丁をなすべし

▲椀　芝えび　松茸　豆腐　へぎ柚子

先づ芝えびを擂鉢に入れ、水を澤山加へ箆を以て掻きまわし、數度水を取換へて笊にあげおき、松茸は、石付の處を削り捨て暫らく鹽水の中へ放ちおきし後ち素水にて洗ひ、適宜に庖丁をなしおき、次に鰹節の煮出汁を煮立て此中へ前に下拵へなしおけるえびと松茸とを入れ、暫らくしてえびと松茸とが煮熟したるとき醬油を適度に注し、一回煮立つを待ちて豆腐を適宜に庖丁して入れ、豆腐が汁の上面に浮き上るを度となし鍋を火よりおろし而して椀に盛り柚子を吸口として勸むべし

▲萩の餅　小豆あん　翁あん　挽茶あん

切り胡麻
きな粉

小豆あんは、鍋又は釜に水を入れ、之に少しく重炭酸曹達を加へ、能く水洗せし小豆を、入れ鍋を火にかけ煮立ちしとき冷水を注し、更に能く煮、小豆が柔らかになるを待ちて兩三度湯を取換へ、之を米とぎ桶の如き器を以て受けおける笊の中へ移し入れ、擂棒を以て笊の中の小豆を擂り潰しつゝ、時々水を注せば、小豆は細粉となりて水と共に受桶の中へ移り、笊の中が小豆の皮のみとなれば、擂ることを止め、受桶の小豆粉を水嚢にて兩度漉して之を布袋に入れ、能く水を搾り取り而して此水氣を除きたる小豆粉少々と砂糖（小豆一升につき砂糖三百五十目を用ゆ）とを鍋に入れ、火にかけ、砂糖が全く溶けしとき、殘りの小豆粉を鍋に入れ、能く練り詰め板又は平皿に移し冷しおくべし

翁あんは、鶉豆又は更紗豆（上等に製するには白隠元豆を用ゆ）を水にて洗ひ、鍋に水を入れ重炭酸曹達少しく加へ火にかけ、微温湯となるを待ちて豆を入れて煮、指先にて豆を摘みて試み容易く豆の皮が剝るを度となして笊に移し井戸流しの處へ持ちゆき、手にて豆を笊に擦りつけ或は兩手にて揉み水を澤山注ぎかけて皮を去り、之を鍋に戻し入れ火にかけ、極く柔らかに煮而して其他小豆あんの手續をなすべし

挽茶あんは、右翁あんの一部を取分け冷めたとき挽茶を混すべし

きな粉は、篩にてふるひ之に砂糖と少量の鹽とを加へおくべし

切り胡麻は、黒胡麻を炒り、之を庖刀にて細かく切り、篩にて漉し之に小量の鹽と少量の砂糖とを加へおくべし

餅飯は、餅米を少しく柔らかに炊きて適宜の大さに丸め而して前に準備をなせる餡、切り胡麻等を塗すべし

▲糯善哉

道明寺糒を手早く水洗ひして布に包み水氣を搾り蒸籠の中へ入れ、平らにならしおきてむし、蒸し終らば丼鉢に移し手早く擂棒を以て少しく搗き之を適宜の大さに丸めて椀に盛り其上へ小豆あんをかけ、蓋をなし、温き中に侑むべし但しかけ餡の製法は前項萩の餅における小豆餡に少量の砂糖の少量と湯とを加へドロ〳〵の堅さにゆるめて温めしものなり

▲栗めし

先づ生栗の鬼皮と澁皮とを除き、之を沸騰湯の中へ投じ兩度程湯を取換へ、頽れぬやうに柔らかにゆて之に鰹節の煮出汁と砂糖と醤油とを加へて淡味に煮ふくめおき、次に白米一升に水一升一合と清酒五勺と醤油五勺と前に味付けおきし栗とを合せ而して普通の飯の如く炊くべし

▲中　皿

蒸松茸
きぬ小蕪
霜ふり烏賊
敷みそ

松茸は、石付を削り捨て、小砂を除き、暫らく鹽水の中へ放ちおきし後ち、素水にて洗ひ、之を竪に薄くへぎ蒸籠にて蒸しおくべし

きぬ小かぶは、小蕪を水にて洗ひ、皮をむき、極く薄く木口切となし、一寸と鹽水に浸しおきてザット素水にて洗ひ、かたく搾り又之を一寸と生酢にて洗ひおくべし

霜降り烏賊は、甲烏賊の墨を潰さぬやうに注意して甲を除き、足をぬきとり、腸を去り、水にて洗ひ、輪切となして目笊に入れ、之を沸騰湯の中へさし入れ、粗ぼ煮熟するを待ち、手早く引上げ、直ちに冷水の中へさし入れて能くひやし、一寸と生酢にて洗ひ而して酢味噌を皿の中へ敷き其上へいか其他二品を盛るべし又酢みその製法は、並味噌を擂鉢にて能く擂り、砂糖を加へて擂り交ぜ（砂糖は味噌に少しく甘味を付ける加減に加ふべし）之に酢を少しく注して擂りのべ、尚ほ之におろし山葵を混ぜし者なり



質疑欄

●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは取調べの都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりやすく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知のこと●本號の雜誌に登載する分は凡て前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　山口　一會員

問　盲腸周圍炎とか申す病氣に就き最近の根治療法これあり候や、又全治するものに候や生命に關するものに候や御教示願上候

答　盲腸とは腸の一部でありまして入口があつて出口のなきゆへに名けたるものでお腹の右の下の方にあり其周圍に炎症を起したので其所に糞便が滯こほるのですから疼痛が盛に來るのです其部分に氷を充てゝ充分に冷やすをよしとす是れとても一時の痛み凌ぎで此療法に就ては是迄内外諸醫の討議講究したところですが今日では劇しき症にありましては早く初期に於て外科手術を施すにあらざれば之を救ふ道がないと云ふ事に何れも一致して居ります併し醫者も此初期と輕重とを見分けますことは餘程困難なことです併し幸ひに我國では病者も餘り多くなく譬へ患者がありましても輕症者が多數を占めて居りますから大概内科の治療に委ぬるが多く外科の療法としては中間期の對症的手術或は間歇時根治手術多數を占め早期手術の實驗をなす機會は多くありませぬが理想的根治療法としては初期の内に外科手術を用ゐることが尤もよいので是れは内外諸大家の何れも贊同する處です此病氣は決して忽がせにしてはならぬので治療後れ重症は固より生命に關すること頗る多きことゝ知らるべし

質問者　神奈川　一會員

問　本年四歳に相成り候女兒此頃顏に小さき水ぶくれの如きもの出來夫れが段々はびこり諸々に澤山出來申候醫士の申すには水痘と申し候右は如何

なるものに候や其心得伺上候

答　醫士の言はるゝ通り水痘でしやう水痘は多く熱及他の前驅症もなくて發し初め小さき赤き色の疹が一とつ一とつに孤立して疎らに胸、頭顏及手足にも發し第二日目には其疹が水痘に變じ第四日目乃至五日目になりますと全く乾燥してしまいます時としては喉軟口蓋及舌にも非常に水痘を見ることがあります傳染しますから他の小兒と隔離することは尤も必要です是れは矢張り痘瘡の種類でありまして其輕きものが水痘少しく重きものが假痘最も重きものが眞痘即ち天然痘であります

問　ジフテリヤ初期の模樣及び此病氣に付注意すべき詳細御敎示願上候

質問者　新潟　一會員

答　此病氣は其症狀確實にわかるものと不確實なるものとありますから早くよき醫者に就きて診療を乞はるゝがよい確實なる症狀を顯はし素人にもわかる程のものは多くは重症です其前驅症としては七八日間何となく小兒は不機嫌となり次第に惡寒頭痛等加はり食物を厭ひ喉咽に痛みを感じ其兩側に梅の實大の痛みある腫れ物が出來聲は枯れ咳嗽と共に輕き熱を發す重きものになりますと口内の軟口蓋咽喉及扁桃腺に白き斑點を發す此毒は極めて傳染力の強いものですから他の小兒の病室に近くことを嚴禁し玩具とか食器其他を他所に移してはなりませぬ

又如何なることがありましても患者の口に自分の口など觸れてはなりませぬ患者の「くさみ」などの看護者の口中に入ることなしとせず然るときは直ちに「サルチル酸水三百倍」を以て幾度となく含嗽すべし又は鹽酸加里水(百分の五)にて「うがひ」するもよし假令ひ口中に入らざるも看護者は屢々含嗽するをよしとす此病氣の進み方は極めて急劇に來るもので無益の考へなどして徒らに時間を費して治療を躊躇したら取りかへしの付かぬ事になりますから此場合には直ちに醫師に就き血清療法を乞はるべし此療法は百發百中の特効藥なれば疑ひなく速やかに治療を實

施せらるべし注射後は安静に臥さしめて其部に觸れしめざることを要す此貴重なる療法によりて全く生命を取り留めたるものといふべし

質問者　京橋　一會員

問　私の豫て醫師より虚弱の質と云はれ冬季肝油の内服をすゝめられ候へども臭ひあしくのみにくゝ困り候右は虚弱者には果して効能の多きものに候や或は胃腸を害する恐れなきやと心配致し候に付此段一寸と御伺ひ申上候

答　身體虚弱の人結核症　諸病　瘰癧貧血病佝僂病、糖尿病、夜盲病等の効能顯著なるもので此油は大口魚の肝臟から絞り取りたる魚油で身體の營養を善くし蛋白質の需要を節減し體量を増すされば肥滿せる人などは痩せたる人よりも熱性諸病等に久しく耐え且つ快復するのも至て速かであります日本人は一體脂肪が不足して居りますから普通健康の人も之を飲用さるれば益々健康を益します時下尤も飲用の好時季ですから今より飲み初めるは甚だよい肝油は仰せの通り多少のみにくいものですがイッソヤ出獄人保護者なる原胤昭氏の寄せられたる飲み方は臭ひを嫌はるゝ御方には尤も便法ですソレハ試驗管の細きものに入れ口腔の奥咽喉に直達させるので是れなれば臭味共に少く頗る輕便です肝油の種類にもいろ〱ありますが價格といひ品質といひ又飲みよきは高橋博士の肝油に若くはないと思ひます胃腸を害するとの御心配御尤もなれどよき品なれば少しも其憂ひはありません嘗て高橋博士は自製の肝油に付き左の試驗をされました

稀薄なる炭酸曹達液を試驗管に入れ少許の改良肝油を加へ拇指を以て管口を塞ぎ一回振り動かせば佳良白色の乳劑を生じ久しきを經ても油分の析出することがありませんでした之に反して阿列布油で同一の試驗を行ひましたら一時間を經ぬ内に脂肪の分離して液上に浮游するを認めました飲用の後アト口が惡るければ蒸餅又は煎餅などを上ることとよろしされば記者も共に肝油飲用の事を御勸めをします、

質問者　麻布　一會員

問　私方にては家内多の事て日々下婢の洗濯多く中々困難に候へば何にか藥品にて垢を落す簡便の洗濯法無之候也御教示被下度願上候

答　普通洗濯曹達を用ゐ洗濯板てゴシ〳〵こするのは中々困難てす併し外に是迄よき方法もありませんてしたが此頃舶來の「サッポン」と云ふ洗濯粉は極めて簡便なもので御質問の答へに相當しますから申上げ升がソレハ直段も安く十錢二十錢いろ〳〵の分量も賣り升が十錢も買へば隨分澤山洗へますまづ其洗濯粉一二杯を適宜の水に溶き之れに洗濯物を暫時浸し置き特別に汚れたるところは少しく揉み次にユスヤ振り出すべし然るときは手を傷むる等の勞力もいらず白地の如きは恰も純白となり又地質のいたむこともなく極めて便利なものてす御試用あれ

神田　一會員

問　私事元來腦病持ちにて秋季になりますと特に頭痛つよく少し永く本など讀み調べ物など致し候へば眼は何にとなく痛み頭重く又は痛み困り居り候豫防法御教示願上候

答　秋季は逆上する人が多く從て頭痛になやむ人は多い眼の痛むのも充血の爲めてしやう毎日通利をよくし臭素加里劑を服用し可成呑氣にせねばいけません眞の腦病となりますと大に其豫防を講じなければなりません嘗て後藤腦病院長が治療を施せし七百八十五名の患者に就き其發病の由來を表記せられたるを見るに

(一)過度の勉強より來れる者	百六十二人
(二)處生の苦心及家族不和	六十二人
(三)失敗損失及落膽の爲め	十五人
(四)近親者の死去を苦にして	二十五人
(五)憤怒驚愕悔悟に因するもの	十一人
(六)家政不如意のもの	三十五人
(七)異性に關する苦慮	五人
(八)事務に對しての苦心	四十一人
(九)己が疾病に失望して	二十一人

（十）其他種々なる苦心　　　二十一人

右の外三百九十七名は不攝生飲酒及喫烟の濫用にして患者は何れ中流以上の男女のよしなるが茲に尤も警告を要すと同學士の說かれしは三百九十七名中四十六名は手淫及房事より來れりと蓋し腦病は充分の睡眠營養、運動と共に其他必要の攝生法を遵守せざるべからず

質問者　四谷　神經生

問　私知人十年來痔疾に罹り居り候處近來漸く佳良に向ひ候處突然咯血いたし肺病に變症致し候就ては右痔疾と肺病とは深き關係のある者に候や御敎示願上候

答　結核菌は肺及腸などには多く發生し易き場所で痔疾にも俗に「いぼじ」「はしりじ」「あなじ」など稱するもありあなじ即痔瘻は多くは結核性にして肺病と同一の黴菌によるものにて瘰癧と稱する一種の腫物も又結核性より來りたるものである左れど痔瘻になれば必ず肺か惡い肺が惡ければ必ず痔瘻になるとは申されない所謂なり易い即發生し易い場所であるから此兩所は多く注意するのである又咯血したからとてソウ驚くに及ばす又肺病ときまつたものでない毫も肺結核に關係なくして咯血する肺二口蟲病と云ふのがあります此細菌は結核菌と全く異なるものであります要するに北里病院へでも御出になつて咯痰の充分なる檢査をして御もらひなさい而して全く結核菌があると云へば痔の方も又た危險なしとせずてす肺病と斷定するには種々の徵候も入用てすか平素盜汗はかきませぬか熱の出ることはありませぬか迚も簡短な條件では詳しき判斷と御回答は出來ませぬ兎に角不意に口から血が出て止まらないときは食鹽一匁か二匁を水に入れて呑まるべし總て病氣は落膽しては治癒せぬものです今日迄の統計によるに肺病は不治の症ではない大概は全治する海邊の空氣と營養を充分にして精養して御覽なさい屹度全癒します心配なさるな

質問者　山形阿部薫子

問　前略第二百號雜誌にて承り候眼を洗ふ極簡便なる硝子製の洗眼瓶は人を依賴せず自分ひとりて使用出來候や買求め度代價郵稅等承知致し度御敎示願上候

答　字に示す如く眼を洗ふ瓶を洗眼瓶と云ひ又藥を自分にて注入するものあり之を點眼瓶といふ何れも簡便なるものにて東京にては何れの賣藥店にもあり升洗眼瓶は恰も瓢簞の中の括れたる如き長凡三四寸位にて上部は眼の形をなす瓶にして固より自身にて洗眼し得べく價は四錢より六錢位點眼瓶は六七錢なるべし郵送費は小包にて十錢位てしやう買ひ求めてあけてもよろしく候





●最も進歩せる化粧法

▲衛生美顏術の輸入　衛生美顏術原名をComplexco nrefiningと稱し目下歐米諸國の新流行にして最も進歩せる化粧法なるが此の方法による時は啻に皮膚表面の氣孔に侵入せる塵埃及び之と相混和せる體外に放散すべき水蒸氣、脂肪分等の汚垢を去り皮膚の蒸發作用を完全にするのみならず外部より皮膚の營養分を塗擦して之を皮下に造るが故に容易に理容の目的を達するを得且つ此の方法を用ひて化粧を施さんか一々白粉を塗りて外出しその禿げんことを氣遣ひて汗を拭かず苦しき思をする等の面倒なく常に美貌を保つを得べし故に衛生上の利益は元より時間の經濟に於ても化粧の目的に對しても懸る重寶な事は

なく被術者は寢臺の上に仰臥し居らば些の窮屈なく面部の蒸氣にて濕められ夫より牛乳と澱粉とより精製されし化粧下は皮膚の表面に塗られ直に吸皮器により氣孔に塡塞せる汚垢は全く除かれ更に蒸氣を應用して皮膚の營養分はマッサーヂ法によりて皮下に送られ偖て又再三蒸氣の應用により化粧用の藥品は塗布せられ爰に全く第一回の施術は終るものにして被術者は最初一週間毎日一回づゝ之を行はしめ以後は三日に一回五日に一回一週に一回といふ如くなし平均毎月一週日づゝ施術を受けなば家に在りて化粧に多く時間を費すの要なしとぞ此の方法は久しく米國にありし西村龍之助氏（故茂樹翁の姻族）より今回我國に輸入せられ氏は京橋南金六町十五番地日勝亭に出張して希望者の依賴に應じ施術し居るが施術料は一回五十錢にして依賴者の宅へ出張する場合は車馬賃五十錢を別に申受くる規定にて旣に二名の助手を養成しつゝあれば理容館なる名稱にて支部を淺草區芋町一丁目一番地福尾方へも設け此の進歩せる化粧法を普及して有害なる白粉を塗布するの惡習慣を去しむると同時に熱心に同志の硏究をも希望し居れりと（中央新聞）

▲精神疲勞の調查法　今回文部省に於て學校生徒の精神疲勞調查に關し同省駿河氏專ら之を擔任し各校醫の補助を得て近〻調查に取掛る豫定なるが其の目的は專ら各學科の學生の腦及び身體に於ける疲勞又は給養の關係を調查するにありて差向き左の四法に依り二三直轄學校に試むべしと云ふ

第一　クルケルスタイン氏法　或學課を學ばんとする前計算法、記臆法、暗取又は結合法（之れは短文章を結合して誤りを正す）等四種の中一を撰びて或る時間之れをなさしめ學課を終りたる後更に其同一法を行ひ學課前後の成績を比較して其學課の學生に及ぼす腦の疲勞を知ること

第二　モッソ氏法　手及腕を固着し中指のみを自由になし之に錘ある糸を附して自由に運轉せしめ其運動を烟煤したる太鼓胴に刻み其指力筋の疲勞を調査する法にて生徒の學課を學ばんとする前後に之を行ひ其太鼓面の波紋を比較して其の疲勞を調査するなり

第三　知覺測定法　是はグリフハシハ氏の法にて皮膚の一點に「コンパス」の如き尖端ある刺激物を觸れ其二點感と一點感との辨別する差違にて疲勞を知る法なり假へば或學課を學びたる前後に

之を試み比較すること前の如し

第四　反應刺激試驗法　刺激的反應に依る法なり即ち甲の人、乙學生を驗せんとせば一二尺の間隔にて同形なる二物を置き甲第一に之れを打ち乙をして之に倣ひて手早く打たしむるにあり然るに腦に疲勞を兆ゆる時は平常より其反應作用鈍く自然手早く打つ能はざるに至る此法も學課の前後に試みて其疲勞を知るに在り

▲大隈伯の長壽法　大隈伯は少なくとも百歳以上の壽を保つべしとの自信確乎たるよし今其說を聞くに生物は總て成熟年齡の五倍を生存すべきものなり植物より高等動物に至る迄皆然り左れば男子二十五歳にして成熟するを以て一百二十五歳の壽を保ち女子二十歳にして成熟するを以て一百歳の壽を保つは當然なるに食養保生の道を誤まり且つ燐酸を缺乏して只石灰質を滯積するを以て遂に硬ばり死するに至るなり其養生方の簡易なるもの二つあり一は精神的にして他は身體的なり身體的に於ては余は毎日且つ温浴す神體の血液を充分に運行せしむるなり精神的に於ては余は常に思想を轉換す決して凝滯固着するを莫らしむ余は斯の如くして必らず百歳の長壽を保つべしと自信せりと

▲外國歸りの某博士曰く　歐米の婦人は善く子供を愛すれど又常に鞭つことを忘れぬ故に子供は長上の言ひ付に對しよく服從の精神に富む日本の婦人は子供の愛に溺れ自己の病氣の容體さへ醫師に向ッて言へぬ娘が多い蓋し文野の差違に歸すべきか

▲外國婦人と日本婦人　外國婦人の輕快なる服裝に引き換へ日本婦人は下駄のチヨコ／＼歩き外國人と交際の道開けても共に遊び方も知らず音樂も知らねば舞踏も知らず話しも出來ねば歩くことさへ充分でないとはチト恥入ッタ次第てはあるまいか

▲人多く家屋や座敷を裝飾することを知るも人生尤も密接の關係ある臺所の淸潔を務めざるもの多し固より臺所を座敷以上に奇麗にせよと云ふにはあらざるも少くも衞生機關なる水道位は引用すべきなり臺所を見て其主婦の注意如何はトすべきなり

▲人工呼吸器の發明　從來溺水、瓦斯吸入、電擊等の爲めに絕息したる者の唯一救急手段としては人工

呼吸法なるもの行はれ居れども其方法には一種の手加減ありて之を心得ざれば奏効覺束なく夫が爲めあたら助け得べき貴重の人命を取留め兼ぬること多く遺憾の次第なるが今や此不幸は匈牙利國サルウォス市の刀圭大家アイゼンメンゲル博士の人工呼吸器發明によりて救濟さるゝに至りたり聞く處に依れば同博士發明の器械は金屬製貝殼様の者の底部に柔軟なる護謨襞ありて是を患者の腹部に緊接せしめ護謨襞に連接せる通氣管を通じて其他端に装置しある踏韛に依り空氣を交互に送入排出せしめ、よりて以て患者の腹部に適宜の壓迫を加減して呼吸を催起せしむると云ふ甚だ簡單なる装置なれども從來の如く人手を以てするものと異りて自由に適宜の調節をなし規則正しき運動を起さしむるものなれば其實驗の結果は甚だ良好にて發明日猶淺きも博士は旣に幾多の人命を救助したりと（日本）

▲寢冷と下痢症　土用明け以來冷氣頓に加はり夜深の頃には往々單衣の寢まきにては肌寒を感ずる事さへあり夫れが爲め内臟の寒冒を發し急性腸加答兒に罹るもの非常に多く何れの醫師の許にも此の患者を見ざる無きが倘ほ罹病後之を隱蔽して買藥等にて手療治せんとする者少からず此等は劇甚の下痢をなし或は裏急後重（しぶり腹）太だしく爲めに家人等に於ても赤痢若しくは虎列剌の疑似症として報告せられんことを恐れ醫師の診療を乞ふを嫌へるが多く其結果劇烈なる吐瀉の爲めに一大衰弱を來たし虛脫に陷りて死する者も往々にしてありと云へば人々よくよく注意ある可し

▲外人醫師開業特權の邦國　先頃發布せられたる外國人醫師免許に關する勅令により相互に無試驗にて免許狀を附與する互惠法に依る國は現時は英國一ケ國のみなるが倘ほ内務大臣は其他の外國とも交涉しつゝある由なれば他諸外國に於ても追々之に倣ふに至るべし因みに現今我國に於て開業しつゝある外國醫師は七十五人なりと云ふ

▲赤痢病と豫防法勵行　東京大阪神奈川兵庫千葉福

島熊本福岡香川愛媛岐阜の二府九縣下を始め其他各地に昨今赤痢病患者續發し其勢ひ益〻盛となり最近内務省衛生局の調査に依れば多きは一縣下に百餘名少きも二三十餘名同新患者續出し益々猖獗の現狀なるを以て同省に於ては不日檢疫官を各地に特派し豫防法を勵行する方針なりと云ふ

▲市内傳染病患者數　先週末に於ける名古屋市傳染病患者數はジフテリヤ二名、腸窒扶斯患者十五名、赤痢病患者十七名合計三十四名なりと又大人の麻疹流行の兆あり

▲夏季の衛生狀態　本年夏季衛生の狀態は全國を通じて概して好良にして最近調査に依れば全國赤痢病患者總數三千二百四人腸窒扶斯患者八千九百十一人なり之れを昨年度同期調査に比すれば赤痢病患者に於ては昨年の七千七百六十九人に對し四千五百六十五人即ち約五割五分以上を減じ腸窒扶斯患者にありては昨年の六千六百廿二人に對し二千二百八十九人即ち約三割五分弱の增加を來せり斯く赤痢患者に於て著しき減少を生ぜしに拘はらず腸窒扶斯患者に於て增加を見るに至りしは該病は其初期に於て腸窒扶斯たるを辨じ難きと隱蔽の行はれ易き爲めにして赤痢患者にありては近來嚴重なる取扱法を勵行し公私共に頗る注意し居るを以てなりと之れに依りて見るも傳染病の豫防は公衆衛生思想の發達に待つこと多大なるを知るべしと當局者は語れり

▲眼の運動　駿河文部省學校衛生醫は語りて曰く近來學生の近視眼に陷るもの多きを加へたるは頗る憂ふべき事にして之れが救濟法として此頃設立計畫中なりと云ふ國民射的場の如きものを歡迎するものなり元來近視眼と云ひ遠視眼と云ふも皆眼球の調節作用を失するに依るものにて射的は第一に射手に注意し第二に銃口、第三標的、第四照尺と云ふ如き遠近に眼球を凝視せしむることを反覆し其調節を善くするの利益あり眼球の調節即ち眼の運動は伊太利の生理學者モスソー氏の夙に奬勵せる處なるが余は啻に一般衛生上に之れを主張するのみならず我國目下の

狀況に於て最も必要を感ず而して要の運動は獨り射的のみに止まらず或は弓術、其他適當の方法に依りて之れを實行せざるべからず、世の父兄達はちと此點に注意ありたし云々

▲傳染病研究所診料規程改正　同所にては豫て芝白金町に醫務室及び病室建築中なりしが此程竣工したるを以て來る二十五日より同所にても外來患者の診療をなす由にて尙在來の診療規程を左の如く改正したり

入室患者	一等	一日	金三圓
同	二等	同	金二圓
同	三等	同	金一圓
外來患者	甲種（血淸注射類）	一回	金二圓
同	乙種（豫防液注射類）	同	金五十錢
同	丙種（投藥）	一劑	金十錢

▲大韓醫院の設備　佐藤博士小山國手主任となりて經營中なる韓國政府の大病院は建築費二十萬圓毎年の經常費十萬餘圓の豫算にて敷地は東大門內の西方馬登山下なる約二十萬坪の廣地とし伊藤統監は之に大韓醫院と命名したり同醫院は衞生部敎育部治療部を置き衞生行政衞生法律等は衞生部にて決定し敎育部は醫學校を監督して八十名の生徒を容れ治療部は病床百二十外來患者三百名に應ずるの設備ありと

▲大連赤十字總會

去十六日午後三時より大連公園に於て赤十字總會を開き小澤副社長松平子臨場し石塚委員長の祝辭小澤男の告示あり來會者千二百餘名（內支那人百餘名）米國領事夫妻も來會し立食の饗應あり同地未曾有の盛況なりしといふ

大日本婦人衞生會記事

本會例會豫告

炎暑中本會の集會を休みしも追々秋冷の好時季となりしを以て來十月六日午後一時半より女子職業學校

内に開き警察署長栗本庸勝及富士川兩氏の講話あり久々にて會員諸氏の參會を待つ

新潟支會報告

◉海水浴場の盛況

新潟支會は全市の衛生會と聯合の上開設せし海水浴場は七月一日（例年より早きこと約十五日間）開場したるに例年に比し晴天の打續きたると一般衛生思想の普及したるとに由り海水及温場共多數の入浴者あり最も多きは四百七八拾名最も少きも五六十名を下らず平均百名餘に上りたり市街より該浴場迄の間は板道を敷けることゝて來衆に便を與ふること少なからず浴場以外の海濱に入浴する者も非常に夥しく兎に角該事業に依りて海水浴が年々隆盛に赴き市民一般の健康を增進すること尠からざるは喜ばしき事ともなり

因に記す浴場は本月（十月）頃閉場の筈

第四十二次

◉高崎支會例會

高崎小學校内に開き副會長相川すが子開會を告げ併せて將來の希望を述ぶ次に新任の高崎衛戍病院長陸軍三等軍醫正村上彌穗君を紹介し次回より講話せらるゝことを約す第一席乾講師には「目下の氣候と疾病」と云へる題にて呼吸器病の多き即扁桃腺炎、咽喉炎、氣管支炎、氣管支肺炎、胸膜炎等に罹り易ければ充分注意しなければならぬと懇篤に演述せられ第二席藤崎講師「子宮病の豫防」と云へる題にて一般に子宮の健全のもの少し之れ場所が場所なれば手遅れにて醫療を乞ふ故に直に癒えず其第一は月經時の攝生第二は陰部の不潔第三有毒の男子に接近すること第四姙娠、出産時、產後の發生不良等に就き懇々說明會員諸姉に感動を與へ閉會を告げしは四時なりき

因に記す第四十四、五、六、會記事も合せて送付せられしも餘白なきを以て次號に讓る

米澤支會報告

米澤支會總會の節役員改撰の結果會長及副會長は左の如く決定せしといふ

會長 上杉安子

副會長 松山あき子

〇本會入會者

〇事務所申込

●韓國京城旭町一丁目 通常會員 鈴木すゞ子

●筑前國鞍手郡大谷村古河鯰頭炭坑 通常會員 横倉熙子

●群馬縣高崎市旅見町九十四 通常會員 勝田久理子

●越中國伏木町日本郵船會社々宅 通常會員 久德喜代子

●神田區四小川町一ノ九 通常會員 友田たま子

〇神田佐々木かく子紹介

●群馬縣山田郡桐生町四丁目淳町關根千代方 通常會員 箕輪なつ子

〇麹町奥田綾野子紹介

●府下荏原郡大崎村大字上大崎今里八〇五 通常會員 河井里代子

〇下谷根岸かな子紹介

●埼玉縣入間郡坂戸町十七 通常會員 柳澤りう子

〇新潟支會入會者

〇大島しづ子紹介 通常會員 遠藤なほ子

〇米澤支會入會者

●米澤市四土手町ノ内 甲種會員 大竹よね子

●同市番正町 甲種會員 針生さだ子

〇米澤支會々員變更

●甲種より 乙種會員 深澤千代子

〇山形支會入會者

〇西村音和子紹介 通常會員 野々村八重子

〇高崎支會姓名變更

●池田こま子改メ 池田千代子

〇改姓名

●京橋荒井たに子改メ 笹生たに子

轉居

●日本橋區矢ノ倉町二、矢ノ倉病院へ 寺田織尾

● 栃木縣宇都宮へ　久保田ふ二子
● 府下八王子町大橫町廿四へ　杢代こま子
● 靜岡縣庵原郡興津町清見寺へ　山梨しき子
● 京橋區南八丁堀一ノ十一へ　笹生たに子
● 牛込區二十騎町三十森方へ　俊野いわ子
● 府下豐多摩郡大久保百人町二五四へ　荻原五百枝
● 本鄕區東片町百二十七へ　藤井靜子
● 府下荏原郡大井村字元芝七四八松井方へ　大谷てう子
● 府下大久保余丁町百〇九へ　安村忠子
● 神田區駿河臺東紅梅町十二へ　小峯三千年子
● 京橋區弓町十九へ　大谷作子
● 周防國久賀町上六千五百八十二へ　崎村文平
● 府下豐多摩郡原宿二〇二北代かつ方へ　吉野伸子

弔詞

本會々員小川まつ子（豐多摩）林田曉子（深川）の兩夫人逝去の報に接し本會は謹みて哀悼の意を表す

大日本婦人衞生會

交換寄贈雜誌（八月分）

日本赤十字　京橋區築地二ノ二十二　日本赤十字發行所
新潟縣衞生會雜誌　新潟縣廳內　新潟縣衞生會
日本橋區衞生協會雜誌　日本橋區永久河岸八號地　日本橋區衞生協會
日本消化機病學會雜誌　麹町區內幸町三胃腸病院內　日本消化機病學會
統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品商事務所
同仁　神田區一ツ通橋町廿一　同仁雜誌社
治療藥報　日本橋區南茅場町二　治療藥報社
女醫界　牛込區市谷河田町　東京女醫學校
女學雜誌　大阪東區北久寶寺町四丁目　明昇堂
家庭新聞　熊本市內坪井町三六　家庭新聞社
家庭雜誌　麹町區元園町一ノ廿七　由分社
家庭の栞　新潟縣女子師範學校內　新潟縣女子教育會
家庭　福岡市船町十七　家庭新聞社
大日本私立衞生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衞生會
體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
通俗衞生　大阪西區土佐堀通三ノ廿九　大阪私立衞生會
なてしこ　麹町區下二番町五十七　大日本女學會
牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷町六十五　牟婁新報社
藥學新報　牛込區下宮比町八　日本藥學會
藥石新報　大阪西區江戶堀下通三ノ卅六　藥石新報社
藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社
經濟新報　麹町區永田町二ノ七五　經濟新報編輯所
婦人世界　大阪南區末吉橋通四ノ六十三　浪華婦人會
婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社

婦人と子ども	本郷女子高等師範學校内	フレーベル會
福田會月報	麻布區笄町百三	福田會育兒院
國家醫學會雜誌	本郷區富士町一	國家醫學會雜誌發行所
工手の母	大阪北區西野田新家西の町番外三二五	工手の母新聞社
交通世界	埼玉縣浦和町五五	交通協會
越佐教育雜誌	新潟市東仲通一番町三七	越佐教育雜誌社
英學生	神田區駿河臺北甲賀町十	東西社
衛生新報	和歌山市小松原通二ノ一	衛生新報社
衛生新報	下谷區池之端仲町十九	衛生新報社
愛國婦人	麴町區飯田町一丁目	愛國婦人發行所
曙光	埼玉縣埼玉郡越ヶ谷町百四十九	曙社
京樂新聞	大阪南區心齋橋筋二ノ百七	京樂新聞社
産科婦雜誌	日本橋區濱町三ノ七	日本産科婦協會
埼玉衛生新誌	埼玉縣北足立郡浦和町二三五	埼玉衛生新誌社
躬行會叢誌	芝區三田綱町一	躬行會叢誌出版部
教育公報	神田區一ッ橋通町	帝國教育會
明治の家庭	牛込區納戸町五	明治の家庭社
みづゑ	小石川區關口駒井町三	春鳥會
兒童教育	神田區末廣町十	兒童新聞社
神經學雜誌	小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室内	日本神經學會
廣島衛生醫事月報	廣島猿屋町	廣島衛生醫事月報社
正氣	牛込區若宮町十五	啓發社

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必ず衛生と相俟ちて而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上●會員は一月拾五錢を納むると●男子にして本支會の趣旨を賛成する通常者は之を賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶとし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第二の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●例會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演說又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●玆に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地
茨城支會

私立大日本婦人衞生會山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す　役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし　本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは　其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は樸誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク　會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス　各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條　毎月壹回（第一日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ樸誠質素ナルヲ要ス　上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衞生會米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條　毎月一回（第二日曜午後一時より四時迄）講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として　特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは　役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

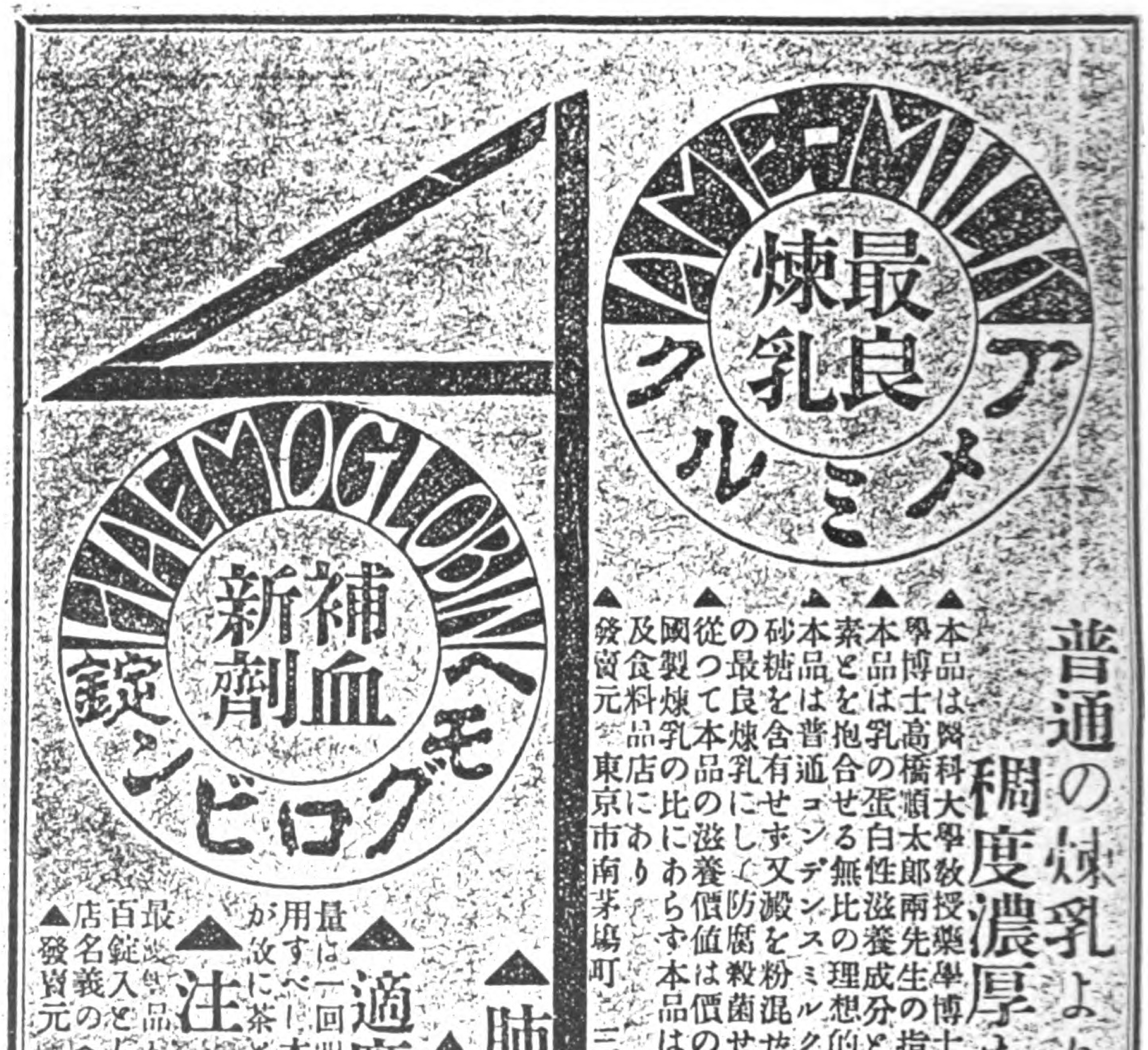
第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に掲けさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會


AME-MILK
アメミルク
最良煉乳
普通の煉乳より稠度濃厚なり
▲本品は醫科大學教授藥學博士下山順一郎醫學博士高橋順太郎兩先生の指導製品なり
▲本品は乳の蛋白性滋養成分と水飴の抱水炭素とを抱合せる無比の理想的煉乳なり
▲本品は普通コンデンスミルクの如く多量の砂糖を含有せず又澱粉を混せざる稠度濃厚の最良煉乳にして防腐殺菌せるものなり
▲從つて本品の滋養價値は價の低きを競ふ外國製煉乳の比にあらず本品は各地有名藥舖及食料品店にあり
▲發賣元 東京市南茅場町 三共商店藥品部
HAEMOGLOBIN
ヘモグロビン錠
補血新劑
▲肺病患者!!
▲貧血病者!!
▲適應症 本劑は肺病、貧血、神經衰弱の恢復期に最も賞用す用量は一回四錠以上一日三回毎食二時間後に服用すべし本劑は百分中鐵〇、四二を含有するが故に茶と共に服用すべからず
▲注意 本劑は醫科大學に於て試驗の結果ヘモグロビン製劑中最良品なりと認定せられたるものなり各瓶百錠入として各地有名藥舖にて販賣す必ず當店名義のヘモグロビン錠と乞御指定
▲發賣元 東京市南茅場町 三共商店藥品部

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に關し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは 役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには 本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め 殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては 特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し 衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し 三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き 毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として 一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衞生會徽章規程

第一條　大日本婦人衞生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ



●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢



●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黒塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衞生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中徳三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目廿二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十九年八月二十一日印刷
明治三十九年九月二十五日發行（毎月一回二十日發行）